

佐賀大学農学部
—自己点検・評価報告書—
[平成22年度]

2012年3月

目 次

1	学部・研究科の目的	
(1)	観点ごとの分析	1
(2)	優れた点及び改善を要する点	2
(3)	自己評価の概要	3
2	教育研究組織	
(1)	観点ごとの分析	4
(2)	優れた点及び改善を要する点	8
(3)	自己評価の概要	9
3	教員及び教育支援者	
(1)	観点ごとの分析	10
(2)	優れた点及び改善を要する点	17
(3)	自己評価の概要	17
4	学生の受入	
(1)	観点ごとの分析	18
(2)	優れた点及び改善を要する点	29
(3)	自己評価の概要	30
5	教育内容及び方法	
(1)	観点ごとの分析	31
(2)	優れた点及び改善を要する点	53
(3)	自己評価の概要	53
6	学習成果	
(1)	観点ごとの分析	55
(2)	優れた点及び改善を要する点	63
(3)	自己評価の概要	63
7	施設・設備及び学生支援	
(1)	観点ごとの分析	64
(2)	優れた点及び改善を要する点	76
(3)	自己評価の概要	76
8	教育の内部質保証システム	
(1)	観点ごとの分析	77
(2)	優れた点及び改善を要する点	84
(3)	自己評価の概要	84
9	管理運営	
(1)	観点ごとの分析	85
(2)	優れた点及び改善を要する点	91
(3)	自己評価の概要	92
10	教育情報等の公表	
(1)	観点ごとの分析	93
(2)	優れた点及び改善を要する点	95
(3)	自己評価の概要	95

1 学部・研究科の目的

(1) 観点ごとの分析

1-1 大学の目的（使命，教育研究活動を展開する上での基本的な方針，達成しようとしている基本的な成果等）が明確に定められており，その内容が学校教育法に規定されている，大学一般に求められる目的に適合するものであること。

観点 1-1-①： 大学の目的（学部，学科又は課程等の目的を含む。）が，学則等に明確に定められ，その目的が，学校教育法第 83 条に規定された，大学一般に求められる目的に適合しているか。

【観点到係る状況】

農学部は，その目的を定め，農学部規則に明記している（資料 1-1-1-1）。

農学部の目的

農学部は，農学及び関連する学問領域において，多様な社会的要請にこたえうる幅広い素養と実行力を身に付けた人材を育成することを目的とする。

（出典：佐賀大学農学部規則（第 1 条の 2））

また，農学部を構成する 3 学科の目的を定め，農学部規則に明記している。

農学部 3 学科の目的

学 科	目 的
応用生物科学科	生物の特性を理解し，生物の改良や活用を通して，社会に貢献できる人材を育成すること。
生物環境科学科	<p>【生物環境保全学コース】 地球上の環境や生態系を深く理解し，これらの保全，再生及び活用を通して，社会に貢献できる人材を育成すること。</p> <p>【資源循環生産学コース】 生物科学及び生産情報科学の理論と技術を学び，環境に配慮した食糧生産と環境問題の解決に貢献できる人材を育成すること。</p> <p>【地域社会開発学コース】 フィールドワークに基づく教育研究を通して，日本を含むアジア・太平洋諸地域における，持続可能な循環型地域社会の構築に貢献できる人材を育成すること。</p>
生命機能科学科	科学的思考力を備え，生命科学技術の応用を通して，食と健康の分野において社会に貢献できる人材を育成すること。

（出典：佐賀大学農学部規則（第 1 条の 3））

資料 1-1-1-1 佐賀大学農学部規則

観点 1-1-②： 大学院を有する大学においては、大学院の目的（研究科又は専攻等の目的を含む。）が、学則等に明確に定められ、その目的が、学校教育法第 99 条に規定された大学院一般に求められる目的に適合しているか。

【観点に係る状況】

農学研究科の教育目的は、佐賀大学大学院農学研究科規則第1条の2に記載しており、その内容は学校教育法第99条第1項「大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を極め、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。」に規定された、大学院一般に求められる目的から外れるものではない。

農学研究科の目的

研究科は、地域社会及び国際社会の発展に必要とされる農学上の諸課題を解決する能力、高い倫理意識及び国際的視野を有し、多方面において先端的・応用的・実用的な能力を発揮し、活躍できる創造性豊かな高度専門職業人を養成することを目的とする。

（出典：佐賀大学大学院農学研究科規則（第1条の2））

資料 1-1-2-1 佐賀大学大学院農学研究科規則

【分析結果とその根拠理由】

農学部の目的は、佐賀大学農学部規則第 1 条の 2 に記載しており、この内容は学校教育法第 83 条に規定された大学一般の目的から外れるものではない。

農学研究科の目的は、佐賀大学大学院農学研究科規則第 1 条の 2 に記載しており、この内容は学校教育法第 99 条に規定された大学院一般の目的から外れるものではない。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

農学部及び農学研究科の目的は明確に定められており、その内容は学校教育法に規定されている大学及び大学院一般に定められる目的に適合している。

【改善を要する点】

特になし

(3) 自己評価の概要

農学部及び農学研究科の目的は明確に定められており、その内容は学校教育法に規定されている大学及び大学院一般に求められる目的に適合している。

2 教育研究組織

(1) 観点ごとの分析

2-1 教育研究に係る基本的な組織構成（学部及びその学科，研究科及びその専攻，その他の組織並びに教養教育の実施体制）が，大学の目的に照らして適切なものであること。

観点2-1-①： 学部及びその学科の構成（学部，学科以外の基本的組織を設置している場合には，その構成）が，学士課程における教育研究の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

【観点に係る状況】

農学部は，総合科学である農学教育を実践するための学科を構成し，教育と研究を担当している。農学部を構成する学科，講座，教育研究分野は，以下のとおりである。

教育研究組織

学科	講座	教育研究分野
応用生物科学科	生物資源開発学	熱帯作物改良学，動物資源開発学，植物工学，植物代謝解析学， 蔬菜花卉園芸学，果樹園芸学，植物遺伝育種学
	生物資源制御学	植物病制御学，植物ウイルス病制御学，線虫学，昆虫学， システム生態学，動物行動生態学
生物環境科学科	生物環境保全学	地圏環境学，水環境工学，浅海干潟環境学，環境地盤学， 生物環境学
	資源循環生産学	農業生産機械学，生産システム情報学，施設農業生産学， 作物生態生理学，資源循環生物学，資源循環フィールド科学
	地域社会開発学	地域ビジネス開発学，地域資源学，人類生態学
生命機能科学科	生命化学	生化学，機能高分子化学，応用微生物学
	食糧科学	生物資源利用学，食品化学，食糧安全学，食品栄養化学

（出典：佐賀大学農学部「履修の手引」）

資料 2-1-1-1 佐賀大学案内（平成 22 年度 p54）

資料 2-1-1-2 佐賀大学農学部・大学院農学研究科概要（平成 22 年度 p4～6）

資料 2-1-1-3 農学部履修の手引（平成 22 年度 p3）

資料 2-1-1-4 佐賀大学学生便覧（平成 22 年度 p8）

資料 2-1-1-5 佐賀大学農学部ホームページ <http://www.saga-u.ac.jp/school/nogaku/index.html>

資料 2-1-1-6 佐賀大学農学部 2010（リーフレット）

【分析結果とその根拠理由】

学科改組後の農学部の学科は，教育研究目的をさらに達成するための適切な構成になっている。

観点2-1-②： 教養教育の体制が適切に整備されているか。

【観点に係る状況】

教養教育は、全学部の教員が担当する教養教育運営機構への全学出勤方式で運営されている。農学部教員は、教養教育科目（主題科目）を担当している。一部の教員は、教養教育科目（共通基礎教育科目（情報処理科目））を担当している（資料2-1-2-1）。

資料2-1-2-1 教養教育科目担当状況一覧（農学部教員）

【分析結果とその根拠理由】

農学部教員は、教養教育科目（主題科目、共通基礎教育科目（情報処理科目））を担当しており、全学出勤方式による教養教育実施体制が適切に整備され、機能している。

観点2-1-③： 研究科及びその専攻の構成（研究科、専攻以外の基本的組織を設置している場合には、その構成）が、大学院課程における教育研究の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

【観点に係る状況】

農学研究科は、生物資源科学専攻の1専攻から組織され、本研究科の教育・研究目的・目標に基づいた5コース7講座・39教育研究分野及び1副コース（農業技術経営管理学）から構成され、教員も各コースにバランスよく配置されていることから、大学院課程における教育研究の目的を達成する上で適切な教育研究組織になっている。

農学研究科の教育研究組織

専攻	学生定員	コース	講座	教育研究分野	教員数
生物資源科学	40	応用生物科学	生物資源開発学	熱帯作物改良学, 動物資源開発学, 植物工学, 植物代謝解析学, 蔬菜花卉園芸学, 果樹園芸学, 植物遺伝育種学	8
			生物資源制御学	植物病制御学, 植物ウイルス病制御学, 線虫学, 昆虫学, システム生態学, 動物行動生態学	6
		生物環境保全学	生物環境保全学	地圏環境学, 水環境工学, 浅海干潟環境学, 環境地盤学, ★海浜台地生産機能学, 生物環境学	6
		資源循環生産学	資源循環生産学	農業生産機械学, 生産システム情報学, 施設農業生産学, 作物生態生理学, 資源循環フィールド科学, 資源循環生物学, ★海浜台地生産生態学	10
		地域社会開発学	地域社会開発学	地域ビジネス開発学, 地域資源学, 人類生態学, ★海浜台地環境社会学	5
		生命機能科学	生命化学	生化学, 機能高分子化学, 応用微生物学, ☆分子細胞生物学	6
			食糧科学	生物資源利用学, 食品化学, 食糧安全学, 食品栄養化学, ★マリンバイオ学	7
		農業技術経営管理学 (副コース)			

★印は海浜台地生物環境研究センター, ☆印は総合分析実験センターにおいて研究指導を行う。

(出典: 佐賀大学大学院農学研究科履修案内)

- 資料 2-1-1-1 佐賀大学案内 (平成 22 年度 p54)
 資料 2-1-1-2 佐賀大学農学部・大学院農学研究科概要 (平成 22 年度 p4~6)
 資料 2-1-3-1 佐賀大学大学院農学研究科履修案内
 資料 2-1-1-4 佐賀大学学生便覧 (平成 22 年度 p8)
 資料 2-1-1-5 佐賀大学農学部ホームページ <http://www.saga-u.ac.jp/school/nogaku/index.html>
 資料 2-1-1-6 佐賀大学農学部 2010 (リーフレット)

【分析結果とその根拠理由】

農学研究科の構成は, 1 専攻・5 コース (1 副コース)・7 講座・39 教育研究分野からなり, 教員も各コースにバランスよく配置されていることから, 大学院課程における教育研究の目的を達成する上で適切なものとなっている。

観点2-1-④： 専攻科，別科を設置している場合には，その構成が教育研究の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

【観点に係る状況】

該当なし

【分析結果とその根拠理由】

該当なし

観点2-1-⑤： 附属施設，センター等が，教育研究の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

【観点に係る状況】

全学的な附属施設，センター等として，産学官連携推進機構，アドミッションセンター，キャリアセンター，教養教育運営機構，附属図書館，保健管理センター，海洋エネルギー研究センター，総合分析実験センター，総合情報基盤センター，留学生センター，低平地沿岸海域研究センター，海浜台地生物環境研究センター，シンクロトロン光応用研究センター，高等教育開発センター，地域学歴史文化研究センター，有明海研究プロジェクトを設置している。これらの附属施設，センターは，全学部に関わる教育研究を支えている。農学部は，附属施設，センター等と連携を保ちながら，学部教育及び研究に活用している。

農学部附属資源循環フィールド科学教育研究センター（教員4人）は，主に農学部の学生を対象としたフィールド科学としての農学教育の実践と研究を担っているが，他学部の学生（平成22年度：文化教育学部15人，経済学部25人，理工学部34人，合計74人）に対しても農業に関する基本的かつ実践的な教育を行っている。なお，8月23日～24日には他大学である熊本県立大学の学生（33人）に対しても実習指導を行った。

【分析結果とその根拠理由】

全学的な附属施設，センターはもとより，農学部附属資源循環フィールド科学教育研究センターは，農学部と緊密に連携しており，農学部における教育と研究を達成する上で適切に機能している。

2-2 教育活動を展開する上で必要な運営体制が適切に整備され，機能していること。

観点2-2-①： 教授会等が，教育活動に係る重要事項を審議するための必要な活動を行っているか。また，教育課程や教育方法等を検討する教務委員会等の組織が，適切に構成されており，必要な活動を

行っているか。

【観点に係る状況】

農学部

農学部の教授会規程（資料 2-2-1-1）に基づき、教員人事、教育課程の編成、学生の入学、卒業、学位授与など学士課程の教育活動に係る重要事項を教授会で審議している。教授会は、平成 18 年度以前は、教授、助教授、講師で構成し、平成 19 年度以降は、教授、准教授、講師、助教で構成している。農学部の教育活動との関係が深い海浜台地生物環境研究センターと総合分析実験センターの教員は、オブザーバーとして教授会に出席している。教授会は、毎月 1 回定例的に、また、必要に応じて臨時に開催している。

農学研究科

農学研究科では、研究科長（学部長兼任）及び研究科を担当できる資格を持つ教授、准教授、講師及び助教より構成される研究科委員会を設置している。この委員会では、農学研究科委員会規程（資料 2-2-1-2）に基づき、研究科における教員人事及び教育課程の編成、学生の入学、修了、学位授与など修士課程の教育活動に係る重要事項を毎月 1 回定例的に、必要に応じて臨時に開催し、審議している（資料 2-2-1-3）。

農学研究科委員会の構成（平成 22 年 5 月 1 日現在）

研究科長(兼任)	教授	准教授	講師	助教
1	23*	23	1	1

*研究科長を含む。

資料 2-2-1-1 農学部教授会規程

資料 2-2-1-2 農学研究科委員会規程

資料 2-2-1-3 農学研究科委員会議事録（農学部総務係）

【分析結果とその根拠理由】

農学部

教授会は、定例又は臨時に開催され、教育活動に係る重要事項を滞りなく審議・決定するための必要な活動を行っている。

農学研究科

研究科委員会は、教育活動に係る重要事項を審議するため、毎月 1 回定期的に、また必要に応じて臨時に行っている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

農学部及び農学研究科の教育研究に係る基本的な組織構成は、大学の目的に照らして適切なものになっている。

特に、農学研究科は、平成22年度に組織改編を行い、1専攻体制による連携型の教育研究カリキュラムを構築するとともに、副コース（農業技術経営管理学コース）を新たに設置し、社会人入学、夜間開講等幅広い教育体制を整えている。

【改善を要する点】

特になし

（3）自己評価の概要

農学部及び農学研究科の教育研究に係る基本的な組織構成は、大学の目的に照らして適切なものになっている。

3 教員及び教育支援者

(1) 観点ごとの分析

3-1 教育活動を展開するために必要な教員が適切に配置されていること。

観点3-1-①： 教員の適切な役割分担の下で、組織的な連携体制が確保され、教育研究に係る責任の所在が明確にされた教員組織編制がなされているか。

【観点到る状況】

農学部

教員組織編制の基本的方針は、学部長の諮問を受けて農学部基本計画委員会が検討し、提案している（資料3-1-1-1）。教員の配置は、学部長の諮問を受けて農学部人事委員会で検討し、提案している（資料3-1-1-2）。教員は、学士課程の教育研究の目的・目標を達成するために、3学科7講座に、バランスよく配置されている（資料3-1-1-3）。教育研究分野の改廃等は、関係講座から発議され、人事委員会及び基本計画委員会における検討を経て、教授会で審議・決定される。

農学研究科

農学研究科では、教育と研究は一体であるという基本方針の下に、修士課程の教育研究の目的・目標を達成するため、1専攻・5コース（1副コース）・7講座・39教育研究分野で構成されている。コースあるいは講座単位で発議された教育研究上の重要な課題、教育研究分野の改廃及び人事などは、まず各該当するコース会議等で審議され、基本計画委員会及び人事委員会の検討を経て、最終的に研究科委員会（資料3-1-1-3、2-2-1-2）で審議・決定されており、問題がある場合は各コースに戻して再検討するなど、組織的に公平かつ責任ある連携体制を確保している。

資料3-1-1-1 農学部基本計画委員会規程

資料3-1-1-2 農学部人事委員会内規

資料3-1-1-3 仮定定員現員表（平成22年度）

資料2-2-1-2 農学研究科委員会規程

【分析結果とその根拠理由】

農学部

農学部は、教育と研究は一体であるという基本的方針に基づき、3学科7講座で構成され、学科、講座、関連委員会及び教授会の間で組織的な連携体制が確保されると同時に、教育研究に係る責任の所在が明確にされた教員組織編成となっている。

農学研究科

農学研究科は、教育と研究は一体であるという基本的方針に基づき1専攻5コース（1副コース）7講座

で構成され、コース、講座、関連委員会及び研究科委員会の間で組織的な連携体制が確保されると同時に、教育研究に係る責任の所在が明確にされた教員組織編成となっている。

観点3-1-②： 学士課程において、教育活動を展開するために必要な教員が確保されているか。また、教育上主要と認める授業科目には、専任の教授又は准教授を配置しているか。

【観点に係る状況】

農学部の教育課程を遂行するための専任教員は、平成22年5月現在で51人が確保されている。教育上必要な授業科目の担当教員として、専任教員（教授、准教授）を配置している。学部教育の一部は、講師と助教が担当している。

農学部の教員配置（平成22年5月1日現在）

学 科	教授	准教授	講師	助教	非常勤講師		合計
					学外	学内	
応用生物科学科	9	5	0	0	1	2	17
生物環境科学科	6	11	3	1	3	5	29
生命機能科学科	6	4	1	1	0	5	17
附属資源循環フィールド科学教育研究センター（注）	1	2	0	1	0	0	4

（注）附属資源循環フィールド科学教育研究センターの教員は、教育組織である生物環境科学科に所属。

上表の専任教員に加えて、農学部における教育研究との関連が深い学内共同教育研究施設（海浜台地生物環境研究センター、総合分析実験センター）の教員（計6人）が、それぞれの専門を活かした授業科目を担当している。

資料2-1-1-3 農学部履修の手引（平成22年度）

資料3-1-2-1 平成22年度非常勤講師一覧

【分析結果とその根拠理由】

農学部の教育課程を遂行するための教員は、必要数確保されている。また、教育上主要な授業科目は、専任の教授又は准教授を配置し、その他の授業科目は、専任の教授・准教授・講師・助教が分担・協力して担っている。

観点3-1-③： 大学院課程において、教育活動を展開するために必要な教員が確保されているか。

【観点に係る状況】

農学研究科では佐賀地域に立脚しながら、地球的規模で農学を考えることのできる幅広い視野、高度な専門的知識、理解力・実践力等を備えた国際性豊かな人材の育成を目的としており、この目的のために、下に示すように48人の専任教員が各コース・講座に配置され、研究指導教員及び研究指導補助教員として研究指導に携わっている。また、これらの専任教員は、それぞれの研究分野に関する講義及び特別研究も担当している（資料2-1-3-1）。教員の退職・不補充が原因で生じる未開講科目、専門性の高い教職免許状（専修）取得関連科目等には、平成22年度は2人の非常勤講師を充てることにより対応した。

農学研究科担当教員数（平成22年4月1日現在）

コース	講座数	教育研究分野数						合計
			教授	准教授	講師	助教	非常勤講師	
応用生物科学	2	13	9	5	0	0	1	15
生物環境保全学	1	6	3	2	1	0	0	6
資源循環生産学	1	7	2	8	0	0	1	11
地域社会開発学	1	4	3	2	0	0	0	5
生命機能科学	2	9	6	6	0	1	0	13

（出典：平成22年度佐賀大学大学院農学研究科履修案内、平成22年度非常勤講師一覧）

資料2-1-3-1 平成22年度佐賀大学大学院農学研究科履修案内

資料3-1-2-1 平成22年度非常勤講師一覧

【分析結果とその根拠理由】

農学研究科の教育研究目的・目標に沿って、教育・研究が可能な50人を超える教員が研究指導教員及び研究指導補助教員として確保されている。さらに、今年度は外国の教員を招聘して新たな特別講義を設けるなど、教育研究スタッフは特に充実した年となっている。

観点3-1-④：大学の目的に応じて、教員組織の活動をより活性化するための適切な措置が講じられているか。

【観点に係る状況】

農学部及び農学研究科ともに、教員組織の活動をより活性化するための方策を学部運営会議が中心となって検討し、必要に応じ、学部内委員会や教授会及び研究科委員会と連携を図りながら適切な措置を講じることとしている。

【分析結果とその根拠理由】

農学部及び農学研究科ともに、その目的に応じて、教員組織の活動をより活性化するための適切な措

置が講じられている。

3-2 教員の採用及び昇格等に当たって、明確な基準が定められ、適切に運用されていること。また、教員の教育及び研究活動等に関する評価が継続的に実施され、教員の資質が適切に維持されていること。

観点3-2-①： 教員の採用基準や昇格基準等が明確に定められ、適切に運用がなされているか。特に、学士課程においては、教育上の指導能力の評価、また大学院課程においては、教育研究上の指導能力の評価が行われているか。

【観点に係る状況】

農学部

教育研究水準を高く維持するために、佐賀大学教員選考基準（資料3-2-1-1）に基づく農学部教員選考規程（資料3-2-1-2）を制定し、この規程に基づいて教員の採用及び昇格を行っている。採用及び昇格候補者の選考は、教授会で選出される教員5人で構成される教員選考委員会が担当し、学士課程における教育上の指導能力の評価と、教授会における審議に基づいて決定している（資料3-2-1-3）。学部教育を担当する教員の採用及び昇格を行うために、厳格な書類審査（履歴書、研究業績目録、研究業績説明書等）を実施している。また、教員採用の最終段階で、必要に応じて、候補者にプレゼンテーションを求め、授業担当能力を測っている。

農学研究科

農学研究科では学部と同様に、佐賀大学教員選考基準（資料3-2-1-1）及び佐賀大学農学部教員選考規程（資料3-2-1-2）に基づいた教員の採用・昇任を行っている。

修士課程の教育研究担当者は、より高度な研究水準を維持するため、博士の学位を有することは勿論、主指導・副指導教員の資格として求められるレフェリー付きの論文数等をクリアすることを条件とするなど（資料3-2-1-4）、大学院課程における教育研究上の指導能力の厳格な評価を行い、研究科委員会の議に基づき、採用者あるいは大学院科目の担当者を決定している。

なお、本学の博士課程の担当者は鹿児島大学大学院連合農学研究科の資格審査委員会において、別途主指導あるいは副指導教員の資格審査を受けることになっているが、この資格基準（資料3-2-1-5）も本学の修士課程の主指導あるいは副指導教員資格と全く同じく厳格な水準にある。

農学研究科教員資格判定基準

主指導教員	修士課程の研究指導及び講義を担当し、学位論文審査の主査となることができる。論文1（レフェリー付き論文）が20編以上「ただし、第1著者（Corresponding Authorを含む。）である論文が10編以上あること」で、最近5年間の業績が5編以上あること。
-------	--

副指導教員	修士課程の研究指導及び講義を担当する。 論文1（レフェリー付き論文）が12編以上「ただし、第1著者（Corresponding Authorを含む。）である論文が6編以上あること」で、最近5年間の業績が5編以上あること。
-------	---

（出典：佐賀大学大学院農学研究科教員資格審査判定基準の申合せ）

資料 3-2-1-1	佐賀大学教員選考基準
資料 3-2-1-2	佐賀大学農学部教員選考規程
資料 3-2-1-3	農学部教員候補者の推薦依頼に関する申合せ
資料 3-2-1-4	佐賀大学大学院農学研究科教員選考基準
資料 3-2-1-5	鹿児島大学大学院連合農学研究科ホームページ（教員資格審査） http://homeugs.agri.kagoshima-u.ac.jp/2teacher_new.html

【分析結果とその根拠理由】

農学部

教員選考基準は明確に定められ、教員選考は、教育上の指導能力と相応の教育上の評価に基づいて実施している。このことにより、教員の採用及び昇格は、適切に運用がなされている。

農学研究科

佐賀大学教員選考基準に基づいた佐賀大学農学部教員選考規程に則って、研究科委員会の議に基づき、教員候補者を決定している。さらに、修士課程の担当者はより高度な研究水準を維持するため、博士の学位を有することは勿論、指定したレフェリー付きの論文数をクリアーすることを条件とするなど、教育研究上の指導能力についてより厳格な評価を行っている。

観点3-2-②： 教員の教育及び研究活動等に関する評価が継続的に行われているか。また、その結果把握された事項に対して適切な取組がなされているか。

【観点に係る状況】

農学部

農学部は、平成5年4月に農学部自己点検・評価委員会を設置し、平成6年からほぼ4年ごとに自己点検評価を実施している。平成14年4月からは、農学部評価委員会が、教育及び研究活動等に関する評価を実施している（資料3-2-2-1）。教員の教育・研究業績、社会貢献、国際貢献、学内運営に関する活動、研究費の獲得状況等をまとめた佐賀大学農学部教員教育研究業績総覧は、教員の教育活動を定期的に評価するためのデータベースとして機能している（資料3-2-2-2）。平成16年度に、農学部個人評価に関する実施要項を策定し、以後、教員についての個人評価を実施している（資料3-2-2-3, 3-2-2-4, 3-2-2-5）。評価の結果は、教員へ通知され、教育活動の改善に利用されている。また、学生による授業評価の結果は、教育改善に利用されている（資料3-2-2-6）。

農学研究科

平成5年4月に農学部自己点検・評価委員会を発足させ、平成6年からほぼ4年ごとに自己点検・評価を行ってきた。同委員会は平成14年4月から農学部評価委員会（資料3-2-2-1）と名称を変え、学部担当及び研究科担当教員の教育・研究業績，社会貢献，国際貢献，学内運営等について評価活動を行ってきた（資料3-2-2-2）。また，平成16年度から新たに農学部個人評価に関する実施基準（資料3-2-2-3）を策定し，当年度から研究教育活動等に関する個人評価報告書に基づき，個人による自己評価結果及び次年度の目標などの提出を義務付けている（資料3-2-2-4）。

また，佐賀大学には教育功績者を表彰する制度（資料3-2-2-7）があり，このような個人評価等に基づいて，学内外で優れた教育活動を行った教員数人を毎年，佐賀大学学長が表彰している。

資料3-2-2-1 農学部評価委員会規程

資料3-2-2-2 佐賀大学農学部教員教育研究業績総覧（2002年，2006年）

資料3-2-2-3 佐賀大学農学部教員の個人評価に関する実施基準

資料3-2-2-4 農学部教員個人評価実施基準

資料3-2-2-5 教員個人評価報告書（平成22年度）

資料3-2-2-6 平成21年度農学部FD活動報告書

資料3-2-2-7 佐賀大学ホームページ（佐賀大学教育功績等表彰規程）

<http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/kisoku.htm>

【分析結果とその根拠理由】

農学部

農学部評価委員会が設置され，教員の教育活動に関する適切かつ定期的な評価が実施されており，その結果把握された事項に対する適切な取組として学部長から各教員へ評価結果を伝えている。また，学生による授業評価と授業改善を，大学教育委員会と連携して実施している。

農学研究科

農学部に評価委員会が設置され，評価方法等を検討すると同時に，この評価方法に基づき研究科担当教員の教育活動について定期的に評価を行っている。この結果，教育に大きく貢献した者について表彰するなど，教員の教育活動に関する評価を定期的実施するための体制が構築されており，把握された事項に対して適切な取組がなされている。

3-3 教育活動を展開するために必要な教育支援者の配置や教育補助者の活用が適切に行われていること。

観点3-3-①： 教育活動を展開するために必要な事務職員，技術職員等の教育支援者が適切に配置されているか。また，TA等の教育補助者の活用が図られているか。

【観点に係る状況】

農学部

教育課程の展開を事務の面から支援する学務部教務課農学部教務係に、職員3人を配置している（資料3-3-1-1）。技術職員は、農学部4人、附属資源循環フィールド科学教育研究センターに5人配置している。技術職員は、学生実験・実習、資源循環フィールド科学実習・演習等の授業を支援し、教育支援者として重要な役割を果たしている（資料3-3-1-2）。大学院修士課程及び博士課程の大学院生がTAに採用され、実験、実習、演習等の教育補助業務を行っている。

農学研究科

学務部教務課大学院係及び附属資源循環フィールド科学教育研究センターの事務職員（非常勤職員も含む。）が大学院修士課程をそれぞれ支援している。また、学部に4人、附属資源循環フィールド科学教育研究センターに5人配置された技術職員は、大学院課程の実験・実習及び演習等の授業等に教育支援者として従事している（資料3-3-1-1、3-3-1-2）。さらに、多数の大学院修士課程の学生がTAとして学部に配置され、実験、実習、演習等の教育補助業務を行うと同時に、教員と学部学生のパイプ役としても重要な役割を果たしている。平成22年度は82人の学生がTAとして採用され、そのうち80人は40.5時間、2人は23時間活動している（平成22年度TA採用調書）。

農学部事務職員現員表（平成22年7月1日現在）

区分	事務職員 行(一)	技術職員 行(一)	計	非常勤職員
事務長	1		1	
総務係	3		3	3
技術職員		4	4	
附属資源循環フィールド科学教育研究センター	2	5	7	3
計	6	9	15	6

（出典：平成22年度佐賀大学大学院農学研究科履修案内 p.6）

平成20, 21, 22年度TAの活用状況

年度	項目	実験補助項目					合計
		実験	実習	演習	講義	卒業研究	
20	TA延べ人数	41	22	34	44	41	182
	科目数	20	6	12	13	11	62
21	TA延べ人数	104	4	56	35	48	247
	科目数	34	2	18	11	15	80
22	TA延べ人数	84	13	47	16	35	195
	科目数	35	7	16	7	11	76

資料 3-3-1-1 学務部職員名簿

資料 3-3-1-2 事務職員現員表（平成 22 年度）

【分析結果とその根拠理由】

農学部

学務部教務課職員と農学部技術職員は、教育支援者として適切に配置され、機能している。実験、実習、演習等の教育補助業務のために T A が活用され、教育と学生をつなぐパイプ役として、重要な役割を果たしている。

農学研究科

学務部の事務職員と農学部の技術職員が研究科教育課程における実験、実習、演習等の教育支援を行っている。また、多数の大学院修士の学生を T A として学部に配置し、教育補助を行っていることから、研究科の教育課程を展開するために必要な事務職員、技術職員等が教育支援者として、T A は教育補助者として適切に配置され、十分な活用が図られている。

（2）優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

教育活動を展開するために必要な教員が適切に配置されている。

【改善を要する点】

特になし

（3）自己評価の概要

農学部及び農学研究科の教員、事務職員また技術職員等は、教育研究を展開するために必要な人員が確保され、また適切に配置されている。

4 学生の受入

(1) 観点ごとの分析

4-1 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められ、それに沿って、適切な学生の受入が実施されていること。

観点 4-1-①： 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められているか。

【観点到係る状況】

農学部

農学部の教育目的を達成するため、アドミッション・ポリシーを明確に定め、ホームページ等を通じて、広く公表している。

農学部のアドミッション・ポリシー

農学部

<教育目的>

今、私たちが生きる 21 世紀は、大量生産・大量消費・大量廃棄型社会から循環型社会への大転換が求められています。このような時代背景のなか、日本有数の食料生産基地である佐賀平野に立地する佐賀大学農学部は、農学という学問が、理系から文系にわたり、基礎から応用に及ぶ総合科学であることを踏まえ、「食料」、「生命」、「環境」、「情報」、「エネルギー」、「地域社会」をキーワードとした多様な重要な課題を解決していこうとしています。そのために、創造性豊かな専門職業人を育て、国内はもとより、アジアをはじめとする世界に貢献します。これらのことから、農学部は、個性とバイタリティーにあふれ、基礎学力を有する人を歓迎します。

応用生物科学科

<教育の目的・目標・方針>

本学科は、ウイルス、糸状菌、線虫、昆虫、植物（作物）、そして哺乳動物に及ぶ多様な生物を材料として、その生命現象及び諸特性の解明、遺伝子工学等の最新技術を応用した有用生物資源の開発・利用並びに環境にも配慮した、その保護に関する教育を行います。

これらの教育を通じて、人口問題、食糧問題、環境問題及びエネルギー問題等の解決に寄与できる、幅広い基礎知識を有し、総合的な問題解決能力を有する人材の育成を目標とします。

<求める学生像>

- 1 本学科の教育研究の目的と内容（多様な動植物の生理生態的特性の解明、バイオテクノロジーを用いた有用生物資源の開発・利用、有用動植物を加害する病害虫の制御等）についての理解と関心がある人
- 2 本学科の教育研究の内容を理解するための基礎となる授業科目（生物、化学、数学、英語、国語等）を修得している人

- 3 問題解決に向けて、粘り強く自己研鑽に努める熱意と実行力がある人
- 4 本学科で学んだことを活かして社会で活躍したいという目的意識と向上心がある人

生物環境科学科

<教育の目的・目標・方針>

本学科は、環境保全及び農業における資源・エネルギー等の課題について、幅広い視野と基礎知識を持ち、高い問題解決能力を持つ技術者・研究者・指導者を育成することを目標とします。

本学科は、次の3コースを有しています。

生物環境保全学コースでは、地球、生物、人の調和を図り、環境への負荷の少ない生物生産環境の保全・創出と豊かな生活環境の創造に関する教育を行います。

資源循環生産学コースでは、農業における資源、エネルギー、環境等の課題に取り組み、高度な生物生産システムに関する教育を行います。

地域社会開発学コースでは、持続的な循環型社会の構築を目指し、国際的視野で民族、地域資源、環境社会、農林水産資源及びビジネス開発に関する教育を行います。

<求める学生像>

- 1 自然環境、社会環境及び生物生産環境の保全と修復に興味を持つ人
- 2 永続的な農業を可能にする新たな生物生産システム及び経済社会システムの創造に意欲がある人
- 3 生物産業及び環境科学の分野において、研究者、技術者として国際的な視野で活躍する意欲がある人

生命機能科学科

<教育の目的・目標・方針>

バイオサイエンス、食品、バイオマス、環境等の分野における重要な問題の解決は、社会的急務となっています。本学科は、これらの分野における科学的な知識と分析技術を身に付け、総合的な問題把握とその解決能力を有し、社会に貢献できる応用力の高い技術者、研究者及び指導者の育成を目標とします。

そのために、本学科は、生化学及び分子生物学を基礎として、微生物からヒトにわたる幅広い生物の生命現象のしくみや機能の解明を行うとともに、それらを応用した食品機能の追求と開発、食品の安全性、バイオマスの利用等に関する教育を行います。

<求める学生像>

- 1 生体における遺伝子の発現や物質代謝とそれらの調節機構を分子レベルで理解するライフサイエンス、食品の生体調節機能、栄養機能や安全性等に興味を持っている人
- 2 将来、本学科で学んだ知識や技術を社会で活かそうと考えている人
- 3 化学的手法を多用しますので、化学はもとより、生物、物理、数学等の理系科目が得意で、英語、国語、社会等の基礎学力を十分身に付けている人

入学者選抜の基本方針（入学、選抜、選抜基準等）

農学部が求める学生像にふさわしい学生を選抜するために、一般選抜、推薦入試、3年次編入学試験

等の多様な入学試験を実施します。

1 一般選抜

高等学校等での学習の達成度を評価するために、大学入試センター試験及び個別試験を課します。大学入試センター試験では、5教科7科目を課し、数学及び理科の学力を重視します。個別学力検査では、前期日程で数学及び英語、後期日程で数学の学力試験を課し、入学後に必要な基礎学力を測ります。

2 推薦入試

第一次選考及び第二次選考により、合格者を決定します。第一次選考では書類審査（調査書、推薦書、作文等）を行い、高校における学習状況等を評価します。第一次選考の合格者について第二次選考を行います。第二次選考では、思考的な論述力及び勉学意欲を測るために、小論文及び面接（口頭試問を含む。）を課します。

3 3年次編入学試験

高等専門学校、短期大学、大学の卒業者と卒業見込みの者、大学に2年以上在学し所定の単位を修得した者等を対象とします。試験科目は、英語、口頭試問及び面接です。

4 帰国子女特別選抜

小論文、口頭試問及び面接を課します。

5 私費外国人留学生選抜

独立行政法人日本学生支援機構が実施する「日本留学試験」、TOEFL及び面接を課します。

（出典：佐賀大学アドミッションセンターホームページ）

平成18年度の学科改組後は、一般選抜、私費外国人留学生選抜、帰国子女特別選抜等の学生募集要項に、学部及び各学科のアドミッション・ポリシーを明記している（資料4-1-1-1）。学生募集要項等の印刷物は、高校、短大、高等専門学校、本学志願者、文部科学省、本学教職員、事務局各課等に配布することにより、周知している（資料4-1-1-2）。

毎年実施している大学説明会（オープンキャンパス）（資料4-1-1-3）、ジョイントセミナー（高校訪問）（資料4-1-1-4）、高校関係者との懇談会（資料4-1-1-5）、留学生フェア・進学説明会等において、アドミッション・ポリシー、教育研究の特色等について説明し、学内外の関係者への周知を図っている。

農学研究科

農学研究科は、平成18年度の学部改組に伴う年次変更により、平成22年度にそれまでの2専攻・9講座・39教育研究分野から1専攻・5コース・7講座・39教育研究分野及び1副コース（農業技術経営管理学）に改組した。改組した研究科の教育目的は、本学及び農学研究科の理念と教育研究の基本方針に従っており、佐賀地域に立脚しながら、地域社会及び国際社会の発展に必要とされる農学上の諸課題を解決する能力、高い倫理意識及び国際的視野を有し、多方面において先端的・応用的・実用的な能力を発揮し、活躍できる創造性豊かな高度専門職業人を養成することである（資料4-1-1-6）。この教育目的に沿って、アドミッション・ポリシーを定め、募集要項（資料2-1-3-1）に示す学生の受け入れの方針としている。また、各コースのアドミッション・ポリシーも明確に定めている（資料2-1-3-1）。

農学研究科のアドミッション・ポリシー

＜農学研究科が求める学生像＞

農学研究科は、生物資源科学専攻の中に農学を基盤とした人類の生存に必要な食料、環境、資源・エネルギー、経済・社会・文化、生命などに関わる5つの教育研究コースを擁しています。本研究科は科学技術の高度化・国際化を踏まえつつ、各コースにおける学習と研究を通じて当該専門分野における専門職業人又は研究者としての知識・技能を高め、リーダーとして社会に貢献する人材の育成を行っています。そのために、本研究科への入学を希望する人には、以下のような資質とそれを支える基礎学力が求められます。

- 1 専門分野における基礎知識を持ち、かつ明確な問題意識を持つ人
- 2 研究課題に取り組む旺盛な意欲と研究を貫徹する実行力のある人
- 3 語学力ならびに高いコミュニケーション能力を有する人
- 4 本研究科での研究を通じて社会に貢献しようという意識の高い人

さらに、本研究科では、修士課程修了後に、農学系大学院博士後期課程に進学して、農学関連の研究者や専門技術者を目指す人材をも求めています。

＜コースの求める学生像＞

（応用生物科学コース）

有用な動植物の育種開発ならびに生物制御機構の解明と応用を中心としたバイオサイエンスに関する知識の修得と研究を志す人

（生物環境保全学コース）

環境負荷の少ない生物生産環境の創出と保全ならびに地球レベルから地域までの幅広い保全と創造に関する知識の修得と研究を志す人

（資源循環生産学コース）

資源循環型の生物生産システムの構築ならびに環境に配慮した農産・加工とバイオエネルギー開発に関する知識の修得と研究を志す人

（生命機能科学コース）

生命現象と遺伝機能の化学的解明ならびに生物の機能性を利活用した食品の製造・貯蔵などライフサイエンスとフードケミストリーに関する知識の修得と研究を志す人

（地域社会開発学コース）

農林水産に関する政策・流通経済・経営管理システム、農村の社会構造と集落維持システムならびに産業・地域開発に伴う環境問題と健康問題に関する知識の修得と研究を志す人

（出典：佐賀大学アドミッションセンターホームページ）

このアドミッション・ポリシーは、大学院募集要項を学内外に配布することで周知するほかに佐賀大学農学部ホームページにも掲載しており、学内外に広く公表・周知されている。

- 資料 4-1-1-1 佐賀大学入学者選抜要項（平成 23 年度）
- 資料 4-1-1-2 学生募集要項配布先一覧（平成 22 年度）
- 資料 4-1-1-3 大学説明会，高等学校・学部別参加申込者数一覧（平成 22 年度）
- 資料 4-1-1-4 ジョイントセミナー実施高校・出席者一覧（平成 22 年度）
- 資料 4-1-1-5 高校関係者との懇談会の実施状況（平成 22 年度）
- 資料 2-1-3-1 平成 22 年度佐賀大学大学院農学研究科履修案内 p8~12
- 資料 4-1-1-6 平成 22 年度佐賀大学大学院学生募集要項 p9~10

【分析結果とその根拠理由】

農学部

アドミッション・ポリシーが明確に定められ、ホームページ，農学部紹介パンフレット等を通じて、学内外に公表，周知している。

農学研究科

アドミッション・ポリシーは明確に定められ、これらの内容については佐賀大学大学院学生募集要項及び佐賀大学農学部ホームページに掲載され、学内外に広く公表，周知されている。

観点 4-1-②： 入学者受入方針に沿って、適切な学生の受入方法が採用されているか。

【観点に係る状況】

農学部

アドミッション・ポリシーに合致する学生を求めるために、多様な選抜試験を実施し、学力，思考力，勉学意欲，独創性などを測ることによって、入学者を決定している。

学部 1 年次生は、入学定員の約 80%を一般選抜により受け入れている。一般選抜は、前期日程を重視し、農学部を目指す入学志願者を積極的に受け入れている（資料 4-1-2-1）。前期日程及び後期日程ともに、大学入試センター試験を課している。個別試験は、前期日程試験では英語と数学を、後期日程試験では数学を課している。大学入試センター試験と個別試験の結果を総合して、合格者を決定している。

入学定員の約 20%を推薦入試により受け入れている。推薦入試は、大学入試センター試験を免除し、推薦書，調査書，小論文及び面接に基づいて合格者を決めている（資料 4-1-1-1）。

農学部学生の選抜・受け入れ状況

学 科	年度	入学定員	入学者			
			合計	推薦	前期	後期

生物生産学科	17	65	74	17	34	23
応用生物科学科	17	80	90	16	49	25
応用生物科学科	18	45	51	11	29	11
	19	45	51	10	31	10
	20	45	48	10	29	9
	21	45	47	10	25	12
	22	45	50	10	30	10
生物環境科学科	18	60	64	18	38	8
	19	60	60	16	39	5
	20	60	73	16	45	12
	21	60	69	16	41	12
	22	60	61	17	33	11
生命機能科学科	18	40	42	6	33	3
	19	40	42	6	32	4
	20	40	44	6	35	3
	21	40	44	6	30	8
	22	40	43	6	31	6

備考：入学定員は，学科改組前（2学科）も改組後（3学科）も145人である。

（出典：アドミッションセンターホームページ「入学試験に関する統計」）

外国人留学生については，英文のアドミッション・ポリシーを募集要項に記載し，特別選抜を実施している。大学入試センター試験を免除し，成績証明書，日本留学試験，TOEFL，面接の総合点に基づいて合格者を決定している。

3年次編入学試験（入学定員10人）は，短期大学，高等専門学校等の卒業見込み者等を対象として実施している。合格者は，推薦書，調査書（成績証明書），学力試験（英語，数学又は生物）及び面接の総合点に基づいて決定している（資料4-1-2-2）。

帰国子女については，帰国子女特別選抜枠を設けている。大学入試センター試験を免除し，推薦書，調査書，小論文及び面接の総合点に基づいて合格を決定している（資料4-1-1-1，4-1-2-3）。

社会人受入れは，農学部では実施していない。

農学研究科

農学研究科では，入学者受入れ方針（アドミッション・ポリシー）に沿い，次に示す選抜方法を採用している。一般選抜においては，筆記試験（英語及び専門科目），面接及び提出書類（成績証明書，志望理由書等）により，また社会人特別選抜及び外国人留学生特別選抜においては，口述試験面接及び提出書類（成績証明書，志望理由書，研究業績書，研究計画書等）により，学力，思考能力，独創性，人間性及び勉学意欲などを総合評価し，選抜している（資料4-1-1-6）。この方針に沿って，修学に必要な学

力、能力及び専門分野の内容などについて口述試験及び面接を行い、求める学生像にふさわしい人物を選抜している。

農学研究科の入学選抜の基本方針（入学、選抜、選抜基準等）

【一般入試】

農学研究科が求める学生像に相応しい学生を選抜するために、外国語（英語）能力と専門分野の知識を問う筆記試験ならびに口頭試問を含む面接試験を実施します。

外国語（英語）試験は、農学研究科の共通問題が課されます。試験問題には、農学・生物科学・環境科学分野における基礎的な題材を取り上げ、筆答による英語の読解力と作文力をみます。

専門試験は、各コースの専門試験として受験者個別に課され、当該コースでの学習・研究に必要な専門的知識の修得程度をみます。応用生物科学コース、生物環境保全学コース、資源循環生産学コース及び地域社会開発学コースは、受験者の志望する教育研究分野の専門試験を出題します。生命機能科学コースは、受験者の志望する教育研究分野の専門試験に加えて、当該コースの共通問題も出題します。

【社会人特別入試】

農学研究科は、大学卒業後に社会における専門分野の職業経験を持つ者を受け入れて、再教育ならびに高度な研究の推進を通じて社会への貢献を目指しています。したがって、社会人特別入試の受験者は、口頭試問及び面接によって専門分野における基礎知識・研究課題ならびに入学後の修学条件等が問われます。

【外国人留学生特別入試】

農学研究科は、設置趣旨に沿い、世界に開かれています。したがって、外国人留学生特別入試の受験者は、口頭試問及び面接によって専門分野における基礎知識、コミュニケーション能力ならびに研究課題等が問われます。

さらに、工学系と農学系の両方の立場の知識と思考力を持ち、帰国後、地球環境について世界的な視野で総合的に洞察できる留学生を育成するため、「地球環境科学特別コース（前身は、国際環境科学特別コース）」を工学系研究科と共同で設置している。なお、このコースの選抜は、受験者が外国にいる場合が多く、面接が困難なため、書類審査（履歴書、成績証明書、志望理由書、研究業績書、研究計画書等）の他にアドミッション・ポリシーに沿い、受験生の専門分野の基礎学力を試すため、Eメールを利用したネットインタビューを行っている。このことは募集要項（資料 4-1-2-4）に掲載し、受験生に周知している。

資料 4-1-2-1 入学試験に関する統計（平成 17 年度～22 年度）

http://www.sao.saga-u.ac.jp/New_wwwout/Nyusi_Tokei/Tokei_Top_Menu.html

資料 4-1-1-1 佐賀大学入学選抜要項（平成 23 年度）

資料 4-1-2-2 佐賀大学編入学学生募集要項（平成 23 年度）

資料 4-1-2-3 推薦・帰国子女特別選抜学生募集要項（平成 23 年度）

資料 4-1-1-6 平成 22 年度佐賀大学大学院農学研究科募集要項 p9~10

資料 4-1-2-4 平成 22 年度佐賀大学大学院地球環境科学特別コース学生募集要項 p6

【分析結果とその根拠理由】

農学部

アドミッション・ポリシーに基づいて、多様かつ適切な入試を実施している。これらの入学者選抜方法は、本学部の目的に合致する学生を受け入れる上で、実質的に機能している。

また、留学生、編入学生、帰国子女に係る入学者選抜は、農学部の教育の目的、アドミッション・ポリシーに沿って、適切に実施され、実質的に機能している。

農学研究科

アドミッション・ポリシーに沿って、適切な学生の選抜方法を採用し、実質的に機能している。また、多様で広範な人物を受け入れるため、社会人特別選抜と外国人留学生特別選抜も実施し、研究科のアドミッション・ポリシーに沿った適切な選抜方法が講じられている。

観点 4-1-③： 入学者選抜が適切な実施体制により、公正に実施されているか。

【観点に係る状況】

農学部

農学部の入学者選抜は、佐賀大学の入学者選抜に係る規程に基づいて実施している（資料 4-1-1-1）。

学長を委員長とする入学試験委員会（以下「入試委員会」という。）は、入学者選抜の実施及び本学における大学入試センター試験の実施に関する基本的事項と重要事項について審議している。試験問題の作成は、入試委員会のもとに置かれた各試験科目の専門委員会が担当している。入学試験問題は、十分な教育研究経験を有する教員により作成されている。公正を期するため、入学試験問題作成に関わる情報は非公開としている。

入学試験の際には、入学試験実施本部及び各試験場本部が置かれ、学長が本部長を、各学部長が各試験場本部責任者（試験場責任者）を務める（資料 4-1-3-1）。入学試験問題作成委員会委員長及び問題作成責任者も試験実施本部員に加わり、入学者選抜を遺漏なく実施するよう配慮している。

面接、口頭試問においては、試験教員を複数人で構成することにより、公正な合否判定が行えるように配慮している。合格候補者は、各学科、教授会における審議を経て決定している。

農学研究科

農学研究科長を総括責任者として、農学部入試委員会の中にある大学院入学試験小委員会が入学者選抜の実施に関する基本的事項及び実施に関する重要事項を審議・決定し、この実施方法により選定された合格候補者について、各コースと研究科委員会の議を経て合格判定が行われている（資料 4-1-3-2）。

入学試験問題の作成は、入試委員会のもとに置かれた各専門委員会が担当し、十分な教育研究経験を有する教員により非公開で作成され、面接、口頭試問においては試験委員を複数人で構成することによ

り、公正な合否判定が行えるよう配慮している（資料4-1-3-3）。

資料4-1-1-1 佐賀大学入学者選抜要項（平成23年度）
資料4-1-3-1 入学試験関係委員割振表（平成22年度）
資料4-1-3-2 平成21年度佐賀大学大学院農学研究科入学試験実施要領 （佐賀大学アドミッションセンター）
資料4-1-3-3 平成21年度佐賀大学大学院入学試験関係委員割振表（佐賀大学アドミッションセンター）

【分析結果とその根拠理由】

農学部

入学者選抜に関わる実施計画等の作成，試験問題の作成，試験の実施，試験の採点及び合格者の決定までの実施体制は，入試委員会を中心に構築されている。関係者間の連携が図られ，意思決定のプロセスと責任は明確かつ公正である。これらのことにより，入学者選抜は，適切な実施体制の下で，公正に実施されている。

農学研究科

入学者選抜に関わる実施体制は，農学部入試委員会の中にある大学院入学試験小委員会を中心に構築されており，組織間の連携も図られ，入学者選抜が適切な実施体制により，公正に実施されている。

観点4-1-④：入学者受入方針に沿った学生の受入が実施に行われているかどうかを検証するための取組が行われており，その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。

【観点に係る状況】

農学部

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿った入試が実施されているか否かについての検証は，主に，入試委員会の中に設置されている入学者選抜方法小委員会（以下「選抜方法小委員会」という。）が担当している。選抜方法小委員会は，入学者選抜方法に関する調査・研究を行うとともに，個別学力検査等の内容，在り方，改善方策を検討している。また，大学進学情報の提供，入学者選抜に関する大学案内の編集及び広報活動に関する事項についても検討している（資料4-1-4-1）。

農学研究科

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生が入学しているかどうかの検証は，大学院一般選抜及び社会人・外国人留学生特別選抜小委員会，入学試験問題作成委員会ならびに各コースにおいて継続的に取り組んでおり，学生の成績や授業評価を参考にして，出願資格及び試験の内容（資料4-1-1-6）や合否判定基準（資料4-1-4-2）について，改善策を継続的に講じてきている。

資料 4-1-4-1 平成 22 年度第 1 回入学者選抜方法小委員会議事要旨

資料 4-1-1-6 平成 22 年度佐賀大学大学院農学研究科募集要項 p63～75

資料 4-1-4-2 佐賀大学大学院農学研究科の入学者試験合否判定基準（佐賀大学アドミッションセンター）

【分析結果とその根拠理由】

農学部

選抜方法小委員会が設置され、入学試験の結果や、高校・高専教員との意見交換等を踏まえ、また、入学者選抜に関する検証と調査研究に基づいて、改善がなされている。

農学研究科

各専攻・学系及び入学試験関係委員会において、本研究科のアドミッション・ポリシーに沿った学生の受入が行われているかどうか、継続的に検証されており、その結果を入学者選抜の改善に役立てている。

4-2 実入学者数が入学定員と比較して適正な数となっていること。

観点 4-2-①： 実入学者数が、入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていないか。また、その場合には、これを改善するための取組が行われるなど、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。

【観点に係る状況】

農学部

過去 6 年間（平成 17～22 年）の平均入学定員超過率は、学部 1 年次入学の場合が 1.10 倍、編入学の場合が 1.1 倍である（資料 4-2-1-1）。学科改組前と改組後の入学定員と在籍学生数は、以下のとおりである。

農学部入学定員と実入学者

学 科	年度	入学定員(a)	実入学者合計(b)	超過率(b/a)
生物生産学科	17	65	74	1.14
応用生物科学科	17	80	90	1.13
応用生物科学科	18	45	51	1.13
	19	45	51	1.13
	20	45	48	1.07
	21	45	47	1.04

	22	45	50	1.11
生物環境科学科	18	60	64	1.07
	19	60	60	1.00
	20	60	73	1.22
	21	60	69	1.15
	22	60	61	1.02
生命機能科学科	18	40	42	1.05
	19	40	42	1.05
	20	40	44	1.10
	21	40	44	1.10
	22	40	43	1.08

備考：入学定員は、学科改組前（2学科）も改組後（3学科）も145人である。

（出典：アドミッションセンターホームページ「入学試験に関する統計」

http://www.sao.saga-u.ac.jp/New_wwwout/Nyusi_Tokei/Tokei_Top_Menu.html）

農学部の入学定員と在籍学生数（平成22年度）

学科	入学定員	在籍学生数			
		1年次	2年次	3年次	4年次以上
生物生産学科	65	—	—	—	10+0編入
応用生物科学科	80	—	—	1+0編入	5+1編入
応用生物科学科	45	50	47	48	54
生物環境科学科	60	62	67	74	71
生命機能科学科	40	43	43	44	47
3年次編入学	10			10	14

備考：入学定員は、学科改組前（2学科）も改組後（2学科）も145人である。

（出典：佐賀大学入学者選抜要項，教務情報システム学籍管理データ及び
平成22年度佐賀大学農学部・大学院農学研究科概要）

農学研究科

平成18年度から平成22年度の専攻別の入学者数は、次のとおりである。本研究科の実入学者数の入学定員に対する割合は、この5年間の平均で0.904となっており、適切な（定員のマイナス10%以内）入学者数となっている。なお、研究科の改組に伴い、平成22年度から入学定員が40人になっていることから、今後はより適正な入学者数割合になると思われる。

また、農学研究科では、修士課程とは別に工学系研究科と連携して、留学生向けに地球環境科学特別コースを設けている。この定員については、工学系研究科と農学研究科の総数で示され、年度毎に両研究科の入学者数が異なるので、農学研究科の実入学者数が適正かどうかは判定できない（下の表は平成21年10月1日現在のもので、平成17年度から平成21年度のデータを示している。）。

農学研究科（修士課程）の入学者数（平成22年5月1日現在）

専攻	入学定員	入学者数			
		18年度	19年度	20年度	21年度
生物生産学専攻	20	15 (1)	18 (6)	25 (2)	20 (5)
応用生物科学専攻	30	22 (1)	25 (1)	25 (1)	23 (0)
合計	50	37 (2)	43 (7)	50 (3)	43 (5)

専攻	入学定員	入学者数
		22年度
生物資源科学	40	44 (2)

(注) () は留学生で内数

(出典：平成22年度佐賀大学農学部・大学院農学研究科概要 p21)

地球環境科学特別コースの入学者数（平成21年10月1日現在）

専攻	入学定員	入学者数				
		17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
生物生産学専攻	5*	2	3	3	1	2
応用生物科学専攻		3	2	1	1	1
合計	5*	5	5	4	2	3

* 工学系研究科（博士前期課程）+ 農学研究科（修士課程）= 5人（国費2，私費3）

資料 4-2-1-1 佐賀大学入学者選抜要項（平成20，21，22年度）ならびに教務情報システム学籍管理データ

【分析結果とその根拠理由】

農学部

農学部の実入学者数は、入学定員を大幅に超過又は下回っておらず、入学定員と実入学者との関係は適正である。

農学研究科

この5年間の農学研究科の入学状況（地球環境科学特別コースを除く。）は、実入学者数が入学定員を大幅に超過することなく、また大幅に下回ってもおらず、入学定員と実入学者との関係は適正である。

（2）優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

農学部及び農学研究科ともに、入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められ、それに沿って、適切な学生の受入が実施されている。

【改善を要する点】

特になし

(3) 自己評価の概要

農学部及び農学研究科では、明確に定められたアドミッション・ポリシーに基づき、適切な数の学生が、適正な試験制度により入学している。

5 教育内容及び方法

(1) 観点ごとの分析

<学士課程>

5-1 教育課程の編成・実施方法（カリキュラム・ポリシー）が明確に定められ、それに基づいて教育課程が体系的に編成されており、その内容、水準が授与される学位名において適切であること。

観点5-1-①： 教育課程の編成・実施方法（カリキュラム・ポリシー）が明確に定められているか。

【観点到係る状況】

農学部では、佐賀大学の学士課程で学習する学生が、卒業までに身に付ける能力を「佐賀大学 学士力」として定め、この学士力に示した能力を学生に身に付けさせることを目指し、これらに沿いながら教育を行っている。また、農学部教育課程編成・実施の方針として、1. 教育課程の編成、2. 教育の実施体制、3. 教育・指導の方法、4. 成績の評価に分けて明確に定められている。

資料 5-1-1-1 佐賀大学農学部学位授与の方針

<http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/housin%20nou.pdf>

【分析結果とその根拠理由】

学位授与の方針を具現化するために、方針の下に教育課程を編成し、教育を実施している。応用生物科学科、生物環境科学科、生命機能科学科では、効果的な学習成果をあげるために、教養教育科目と専門教育科目を有機的かつ体系的に配置した4年間の教育課程を編成し、実行している。

観点5-1-②： 教育課程の編成・実施方針に基づいて、教育課程が体系的に編成されており、その内容、水準が授与される学位名において適切なものになっているか。

【観点到係る状況】

農学部は、佐賀地域に立脚しながら、地球的規模で農学を考えることのできる幅広い視野、高度な専門知識、理解力、実践力等を備えた国際性豊かな人材を育成することを目的としている。平成18年4月に2学科から3学科に改組してカリキュラムを一新し、教育課程の編成趣旨に沿った授業内容に改善した。

授業科目区分と農学部の卒業要件

学 科	教養教育科目								小 計	専門教育科目			小 計	合 計	
	大学 入 門 科 目	共通基礎教育科目						主題科目		専 門 基 礎 科 目	農 学 基 礎 科 目	専 門 科 目			
		外国語科目		健康・スポ ーツ科目		情報処理 科目		分 野 別 主 題 科 目							共 通 主 題 科 目
		英 語	独 語 仏 語 中 国 語 朝 鮮 語	講 義 ・ 演 習	実 習	講 義	演 習								
応用生物科学科	2	4	4	2	2	2	1	20	37	4	6	79	89	126	
生物環境科学科	生物環境保全学コース	2	4	4	2	2	2	1	20	37	4	6	79	89	126
	資源循環生産学コース	2	4	4	2	2	2	1	20	37	4	6	79	89	126
	地域社会開発学コース	2	4	4	2	2	2	1	20	37	4	6	79	89	126
生命機能科学科	2	4	4	2	2	2	1	20	37	8	6	75	89	126	

(出典：佐賀大学農学部「履修の手引」)

農学部の教育課程は、教養教育科目と専門教育科目で構成している。卒業するために必要な修得単位数（卒業要件という。）は、3学科（応用生物科学科、生物環境科学科、生命機能科学科）ともに126単位である（資料2-1-1-3）。内訳は、教養教育科目が37単位（大学入門科目が2単位、共通基礎教育科目が15単位、主題科目が20単位）、専門教育科目が89単位である。専門教育科目の内訳は、専門基礎科目が4単位（応用生物科学科、生物環境科学科）又は8単位（生命機能科学科）、農学基礎科目が6単位（3学科共通）、専門科目が79単位（応用生物科学科、生物環境科学科）又は75単位（生命機能科学科）である。

教養教育科目である大学入門科目、外国語科目、健康・スポーツ科目、情報処理科目を必修とし、専門教育の基盤を形成できるようにしている。

専門教育科目については、専門基礎科目（数学、物理学、化学、生物学）を1年前学期に配置することにより、農学部における学修に必要な理数科目の基礎学力を養い、高校教育から大学における専門教育への移行がスムーズに行えるように配慮している。

農学部の中心的な授業科目（コア科目）として、農学基礎科目5科目を選定し、1、2年生向けに開講している。学生は、3科目（6単位）を選択履修（必修）することにより、農学の基本を修得する（資料5-1-2-1）。

専門科目の必修科目及び選択必修科目（一覧表）

学科	専門基礎科目	農学基礎科目	専門科目
----	--------	--------	------

応用生物科学科	化学 生物学		植物生産学, 熱帯農業論, 遺伝学, 応用動物昆虫学, 生物統計学, 植物育種学, 植物病理学 I, フィールド科学基礎実習 I, 生物学実験, 応用化学実験, 果樹園芸学, 蔬菜園芸学, 応用生物学実験, 科学英語, 生物科学英語, 生物情報処理演習, 卒業研究
生物環境科学科	生物環境 保全学コース		生物環境保全学概説, 資源循環生産学概説, 地域社会開発学概説, 実験生物環境保全学 I・II, 科学英語, 生物環境保全学演習, 卒業研究, (実験水気圏環境学, 実験地圏環境学, 実験生物環境学のうち 1 科目)
	資源循環 生産学コース	数学, 物理学 化学, 生物学 のうち 2 科目 4 単位	生物環境保全学概説, 資源循環生産学概説, 地域社会開発学概説, 栽培技術論, 栽培環境制御学, 農業生産機械学, フィールド科学基礎実習 I・II, 生物科学実験実習, 科学英語, 卒業研究
	地域社会 開発学コース		生物環境保全学概説, 資源循環生産学概説, 地域社会開発学概説, 地域資源論, 人間開発論, 地域ビジネス開発論, フィールドワーク基礎演習, フィールド科学基礎実習 I, 科学英語, 卒業研究
生命機能科学科	数学 物理学 化学 生物学	作物生産学, 動物資源開発学, 土壌学, 生物化学, 食品流通学 のうち 3 科目 6 単位	物理化学, 有機化学, 分析化学, 化学実験 I, 生物有機化学, 生化学, 生物物理化学, 微生物学, 生命化学概説, 食糧科学概説, 食品衛生学, 栄養化学, 食品化学, 分子生物学, 生化学実験, 化学実験 II, 微生物学実験, 科学英語, 生物学基礎実験, 卒業研究

(出典：佐賀大学農学部「履修の手引」)

応用生物科学科では、専門 9 科目の講義、科学英語、生物科学英語、生物情報処理演習、フィールド科学基礎実習 I、生物学実験、応用生物学実験、応用化学実験、卒業研究を必修科目としている。3 年前期の始めに行う分野分属の後には、各分野の教員が担当する選択科目や実験実習科目を選択、履修する。

生物環境科学科では、生物環境保全学、資源循環生物学、地域社会開発学の 3 コースを設けており、学生は、2 年次前期から各コースに分属する。このため、カリキュラムはコースにより異なる。学科としての必修科目は、各コースが開設する概説、科学英語、卒業研究である。生物環境保全学コースの必修科目は、実験生物保全学 I、II と生物環境保全学演習である。資源循環生物学コースの必修科目は、3 つの講義科目、フィールド科学基礎実習 I、II ならびに生物科学実験実習である。地域社会開発学コースの必修科目は、3 つの講義科目、フィールドワーク基礎演習、フィールド科学基礎実習 I である。これらの 3 コースの学生は、学生実験などを必修科目とするとともに、豊富な選択科目の中から履修科目を選ぶことにより、自主的に履修カリキュラムを作り上げる。

生命機能科学科は、13 の講義科目、5 つの実験実習科目、科学英語、卒業研究を必修科目としている。カリキュラムの基本的な部分を固定して、生命科学についての基本的な理解を深めさせることにより、有用生物の開発と生物資源の有効利用を図ることができる人材の養成を進めている。

資料 2-1-1-3 農学部履修の手引 (平成 22 年度)

資料 5-1-2-1 農学部授業時間割表（平成 22 年度）

【分析結果とその根拠理由】

農学部は、専門教育科目の中に共通の専門基礎科目を配置し、農学基礎科目（コア科目）を選択必修とすることにより、スムーズに学習できるように工夫している。各学科、各コースは、その教育目的に合わせて、基礎から応用までの科目を履修できるように、各種の講義、演習、実験実習の各科目を配置している。必修科目と選択科目は、学生の修学意欲を引き出すために、バランスを工夫している。このように、農学部の教育目的に即して、授業科目が適切に配置されており、教育課程の編成において体系的性が確保されている。

観点 5-1-③： 教育課程の編成又は授業科目の内容において、学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に配慮しているか。

【観点到に係る状況】

農学部は、他学部学生のニーズを満たすために、専門科目の一部を学内開放科目として実施している。他方、農学部学生は、他学部の科目を受講可能であり、修得した単位は、自由科目として卒業要件に加えることができる（資料5-1-3-1）。農学部学生は、単位互換制度に基づいて、他大学で開講される科目を履修できる（例：琉球大学の熱帯農学総合実習など）（資料2-1-1-3）。他方、農学部は、フィールド科学総合実習を附属資源循環フィールド科学教育研究センターにおいて毎年実施し、単位互換制度に基づく宿泊実習に他大学の学生を受け入れている。企業や試験場等でのインターンシップを3年前学期に実施し、単位として認定している（2単位）（資料5-1-3-2）。

専門基礎科目の数学や物理学については、成績不良者に対する補講を実施している（資料 5-1-3-3）。編入学生については、短期大学等で修得した単位を一括して認定し、農学部の卒業要件に算入している（資料 2-1-1-4）。

多様な知的関心をもつ受講生の修学意欲を高め、理解を深めるために教員は、所属学会等における研究の成果を授業内容に組み込んだり、新聞記事など活用して、関係分野における社会的状況を紹介している。

資料 5-1-3-1 学内開放科目一覧（平成 22 年度）

資料 2-1-1-3 農学部履修の手引（平成 22 年度）

資料 5-1-3-2 インターンシップ参加者一覧（農学部、平成 22 年度）

資料 5-1-3-3 補講実績表（平成 22 年度）

資料 2-1-1-4 佐賀大学学生便覧（平成 22 年度）

【分析結果とその根拠理由】

学内開放科目、単位互換、インターンシップ、専門基礎科目の補講、編入学者への配慮などがなされている。また、授業において、学術の動向や社会的要請との関係が、必要に応じて紹介されている。こ

これらのことにより、学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に対応した教育課程の編成及び授業科目の内容となっている。

5-2 教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていること。

観点5-2-①： 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態の組合せ・バランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法が採用されているか。

【観点に係る状況】

農学部ならびに各学科の教育目的を達成するために、様々な授業形態を組み合わせ、カリキュラムに沿った教育を実施している（資料5-2-1-1）。

農学部専門科目の授業形態別単位数（学科改組後の卒業要件）

学科	コース	講義	演習	実験	卒業研究
応用生物科学科	—	75	2	4	8
生物環境科学科	生物環境保全学	79	2	0	8
	資源循環生産学	77	0	4	8
	地域社会開発学	79	0	2	8
生命機能科学科	—	70	0	11	8

（出典：佐賀大学農学部「履修の手引」）

演習科目の多くは、少人数授業でなされる対話・討論型授業である。フィールド科学基礎実習Ⅰ、Ⅱのようなフィールド型授業や、情報基礎演習Ⅰなどでは、パソコンを利用した授業を実施している（資料5-2-1-1）。農学研究科の大学院生をTAとして採用し、学部学生に対する教育を充実させている。

資料5-2-1-1 オンラインシラバス

<http://lc2.sc.admin.saga-u.ac.jp/syllabus2/syllabusSearchDirect.do?nologin=on>

【分析結果とその根拠理由】

教育の目的に照らして、講義、演習、実験実習の授業形態がバランスよく組み合わせられており、教育目的に応じた適切な学修指導がなされている。

観点5-2-②： 単位の実質化への配慮がなされているか。

【観点に係る状況】

単位の实質化については、量と質の両面において、配慮している。

農学部で開講されているすべての講義、演習、実験・実習は、単位修得に必要な授業時間数を確保している。やむを得ず休講になった場合は、必ず補講又はそれに準ずる対応を実施している(資料2-1-1-3)。

農学部履修の手引には、カリキュラム表やシラバスなどの教務事項を詳しく記載している。1年次始めに行うガイダンスなどにおいて、各学科・各コースの履修プログラムについて詳しく説明している(資料5-2-2-1)。教育委員や教務課職員による個別的な履修指導やメールを活用した相談などにより、適切な履修計画を学生が立てられるようにしている。これらのことを通して、学修目標を明確にし、単位を修得するために必要かつ十分な学修を学生に求めている。

教員は、オフィスアワーを設定するとともに、メールアドレスを公開している。質問がある学生は、教員と連絡を取り、個人的に指導を受けることができる。研究室に所属した後の学生は、卒業研究の指導教員からマンツーマン指導を受ける体制にしてある。

個人評価におけるGPAを、平成18年度から導入している。GPAは、学修意欲を引き出すために活用している(資料5-2-2-2)。

資料2-1-1-3 農学部履修の手引(平成22年度)

資料5-2-2-1 農学部オリエンテーション(平成22年度)

資料5-2-2-2 GPA導入の方針

【分析結果とその根拠理由】

授業時間数の確保の徹底、組織的な履修指導などの、単位の実質化に必要な配慮がなされている。

観点5-2-③：適切なシラバスが作成され、活用されているか。

【観点到係る状況】

農学部の教育目的を達成するための教育課程は、農学部教育委員会が検討し、各学科、基本計画委員会ならびに農学部教授会における審議を経て、シラバスが作成されている。

教育課程の実践に必要な各教員が担当する授業科目のシラバスは、シラバスの記入フォーマットを使用して作成している。シラバスは、オンラインシラバスとしてインターネットで公開している(資料5-2-1-1)。教員は、最初の授業でシラバスの内容を説明するとともに、「学生による授業評価」の結果等を利用して、シラバスを改善している(資料5-2-3-1)。

資料5-2-1-1 オンラインシラバス

<http://lc2.sc.admin.saga-u.ac.jp/syllabus2/syllabusSearchDirect.do?nologin=on>

資料5-2-3-1 授業評価実施要領

【分析結果とその根拠理由】

教育課程の編成趣旨に沿ったシラバスが適切に作成及び公開され、授業で活用されている。また、シラバスに記載する事項の改善は、「学生による授業評価」の結果などを利用してなされている。

観点5-2-④： 基礎学力不足の学生への配慮等が組織的に行われているか。

【観点に係る状況】

学生からの質問や要望に対応するため、教員は、オフィスアワーやメールアドレスを学生に公開している（資料5-2-4-1）。附属図書館は、学生用の机、パソコン等を整備し、学生が自由に使える体制としている（資料5-2-4-2）。学生の自主学習のために、総合情報基盤センターや附属図書館のパソコンを自由に使えるようにしている。

農学部は、学生が机、椅子を自由に使えるリフレッシュスペースを設けている。各研究室では、学生用の空間を整備している。これらを学生が自主学習のために活用している（資料5-2-4-3）。

基礎学力が不足している学生については、専門基礎科目の数学及び物理学で補習授業を実施している（資料5-1-3-3）。

資料5-2-4-1 オフィスアワー一覧 <http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/office.html>

資料5-2-4-2 附属図書館利用規程

資料5-2-4-3 農学部建物平面図

資料5-1-3-3 補講実績表（平成22年度）

【分析結果とその根拠理由】

農学部の学生のための自主的学習環境は整備され、利用されている。また、基礎学力不足学生への配慮が組織的に行われている。

観点5-2-⑤： 夜間において授業を実施している課程（夜間学部や昼夜開講制（夜間主コース））を置いている場合には、その課程に在籍する学生に配慮した適切な時間割の設定等がなされ、適切な指導が行われているか。

【観点に係る状況】

該当なし

【分析結果とその根拠理由】

該当なし

観点5-2-⑥： 通信教育を行う課程を置いている場合には、印刷教材等による授業（添削等による指導を含む。）、放送授業、面接授業（スクリーニングを含む。）若しくはメディアを利用して行う授業の実施方法が整備され、適切な指導が行われているか。

【観点に係る状況】

該当なし

【分析結果とその根拠理由】

該当なし

5-3 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）が明確に定められ、それに照らして、成績評価や単位認定、卒業認定は適切に実施され、有効なものになっていること。

観点5-3-①： 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）が明確に定められているか。

【観点に係る状況】

教育目標に照らして、学生が身に付けるべき具体的学習成果の達成を学位授与の方針としている。また、学則に定める所定の単位を修得した者には、教授会の議を経て、学長が卒業を認定し、学位記を授与すると明確に定められている。また、さらに詳細に、学科毎に、1. 基礎的な知識と技能、2. 課題発見・解決能力、3. 個人と社会の持続的発展を支える力、に分けて定められている。

資料 5-1-1-1 佐賀大学農学部学位授与の方針

<http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/housin%20nou.pdf>

【分析結果とその根拠理由】

学則に定める所定の単位を修得した者には、教授会の議を経て、学長が卒業を認定し、学位記を授与している。

観点5-3-②： 成績評価基準が組織として策定され、学生に周知されており、その基準に従って、成績評価、単位認定が適切に実施されているか。

【観点に係る状況】

佐賀大学成績判定等に関する規程が定められ、この規程に準じて、農学部で開講している授業科目の成績評価を実施している。「成績評価の方法」はシラバスに明記し、学生に周知している。成績判定は、授業科目の内容に応じて、定期試験、小テスト、レポート等により行い、成績評価と単位認定を厳格に実施している（資料 5-3-2-1）。卒業認定の要件は、履修細則や農学部履修の手引に明記している（資料 5-3-2-2, 2-1-1-3）。卒業研究については、公開の卒業研究発表会を学科・コース単位で実施するとともに、卒業論文を提出させて、厳格に評価している（資料 5-3-2-3）。卒業認定は、学生が修得した科目の単位数と内訳に基づいて、教育委員会における実務的な検討を経て、教授会で審議し、決定している。

資料 5-3-2-1 佐賀大学成績判定等に関する規程

資料 5-3-2-2 農学部履修細則

資料 2-1-1-3 農学部履修の手引（平成 22 年度）

資料 5-3-2-3 応用生物科学科応用生物学系卒業研究発表会目次（平成 21 年度）

【分析結果とその根拠理由】

佐賀大学成績判定等に関する規程などに基づいて、成績評価と単位認定が適切に実施されている。卒業認定は、農学部規則に基づいて、教授会で審議し、決定している。

観点 5-3-3-③： 成績評価等の客観性、厳格性を担保するための組織的な措置が講じられているか。

【観点に係る状況】

佐賀大学成績判定等に関する規程に基づいて、成績判定を行っている（資料 5-3-2-1）。試験の答案は、成績判定の妥当性を検証・確認できるように、3ヶ月間保存することとしている。成績評価に異議のある学生は、成績評価の異議申立てに関する要項に基づいて、担当教員に申し出ることができる。担当教員との協議によって成績評価に対する疑義が解決されない場合又は担当教員と協議ができない場合には、学部長に申し出ることができるし、農学部の場合は、教育委員に申し出ることができる。教育委員は、学生と担当教員から意見を聴取して、担当教員に問題があると判断した場合は、是正を勧告できる。

資料 5-3-2-1 佐賀大学成績判定等に関する規程

【分析結果とその根拠理由】

成績判定等に関する規程に基づく成績判定、学生に対する「成績評価の方法」の周知、成績評価に対する疑義に対応する制度等により、成績評価の正確性を担保するための処置を講じている。

観点 5-3-3-④： 学位授与方針に従って卒業認定基準が組織として策定され、学生に周知されており、その基準に従って卒業認定が適切に実施されているか。

【観点に係る状況】

佐賀大学成績判定等に関する規程が定められ、この規程に準じて、農学部で開講している授業科目の成績評価を実施している。「成績評価の方法」はシラバスに明記し、学生に周知している。成績判定は、授業科目の内容に応じて、定期試験、小テスト、レポート等により行い、成績評価と単位認定を厳格に実施している（資料 5-3-2-1）。卒業認定の要件は、履修細則や農学部履修の手引に明記している（資料 5-3-2-2、2-1-1-3）。卒業研究については、公開の卒業研究発表会を学科・コース単位で実施するとともに、卒業論文を提出させて、厳格に評価している（資料 5-3-2-3）。卒業認定は、学生が修得した科目の

単位数と内訳に基づいて、教育委員会における実務的な検討を経て、教授会で審議し、決定している。

資料 5-3-2-1 佐賀大学成績判定等に関する規程

資料 5-3-2-2 農学部履修細則

資料 2-1-1-3 農学部履修の手引（平成 22 年度）

資料 5-3-2-3 応用生物科学科応用生物学系卒業研究発表会目次（平成 21 年度）

【分析結果とその根拠理由】

佐賀大学成績判定等に関する規程などに基づいて、成績評価と単位認定が適切に実施されている。卒業認定は、農学部規則に基づいて、教授会で審議し、決定している。

<大学院課程（専門職学位課程を含む。）>

5-4 教育課程の編成・実施方針が明確に定められ、それに基づいて教育課程が体系的に編成されており、その内容、水準が授与される学位名において適切であること。

観点5-4-①： 教育課程の編成・実施方針が明確に定められているか。

【観点に係る状況】

農学研究科の教育目標は、ホームページ（佐賀大学学生センターのウェブサイト、三つの方針のページ）上で一般に公開されている。また、各学生に配布される大学院履修案内の中にも、教育研究の理念と目標として明記され、教育委員や指導教員から適時周知されている。

農学研究科は、平成22年度に1専攻5コース（1副コース）への改組を行い、各コースの教育目的に沿った教育課程の編成と実施方針が以下のように明確に定められている。

教育研究の理念と目的

農学研究科における教育研究の理念と目的とは、現在、我々人類が抱える食料や環境といった分野で問題視されている種々の農学上の課題を克服すべく学問・研究することである。本農学研究科の教育目的も、近年の科学技術の高度化・多様化・国際化という激動の時代の中で、社会のニーズに応えられる人材を育成することである。すなわち、確固たる専門基礎知識に裏付けられた正しい価値観を基盤とし、冷静かつ柔軟な判断力・行動力を兼ね備えた創造性豊かな専門職業人になるべき人材を育成することである。

（出典：平成22年度佐賀大学大学院農学研究科履修案内 p9）

農学研究科の教育目的と教育課程の編成・実施方針

（教育目的）

佐賀大学大学院農学研究科の教育目的は、科学技術が高度化・多様化・国際化する時代の中で、社会のニーズに応えられる人材、すなわち確固たる専門基礎知識に裏付けられた正しい価値観を基盤とし、冷静かつ柔軟な判断力・行動力を兼ねそなえた創造性豊かな専門職業人になるべき人材を育成することである。

農学研究科唯一の専攻である生物資源科学専攻において育成する人材は、第1に、高い倫理意識と国際性豊かな教養を有し、情報収集・分析能力及び優れたコミュニケーション能力を活かして、企業や社会において能力を発揮できる専門職業人であり、第2に、生物資源の開発と制御、環境保全と持続的農業生産、生命化学と食糧科学、地域社会の持続可能な開発などの分野で、先端的・応用的・実用的な能力を発揮できる高度な専門職業人であり、第3に、高度な農業技術と経営管理能力を有し、中北部九州及びアジアの諸地域における地域農業組織・企業・団体・行政・研究所等の職場で、実行力をもって活躍できる高度な専門職業人である。

（教育課程の編成・実施）

以上のような農学研究科の教育目的を達成するために、本農学研究科には、生物資源科学専攻の 1 専攻を置き、その中に 5 つの主コース（応用生物科学コース・生物環境保全学コース・資源循環生産学コース・生命機能科学コース・地域社会開発学コース）と 1 つの副コース（農業技術経営管理学コース）を設置する。

また、1 単位制講義を基本とするサブ・セメスター制度を導入し、柔軟なクロス履修による専門横断的な知識の修得を可能とする教育課程を編成する。専攻共通科目として農学総合講義 2 単位を必修とし、基礎教育科目 5 科目（各 1 単位）から 2 単位を選択必修とすることにより、農学部における基礎的で広い知識も修得できるように配慮する。

さらに、それぞれの主コースに教育研究分野を配慮し、すべての学生はいずれかの教育研究分野に所属し、指導教員ももとの特別研究（必修）を履修する体制を整える。

（出典：佐賀大学学生センターホームページ）

【分析結果とその根拠理由】

農学研究科の教育目標は、ホームページで一般に公開されるとともに、大学院履修案内等の冊子にも明記され、学生に適時周知されている。

農学研究科では、教育課程の編成・実施方針が明確に定められ、ホームページで公開されるとともに大学院履修案内等で学生に周知している。

観点 5-4-②： 教育課程の編成・実施方法に基づいて、教育課程が体系的に編成されており、その内容、水準が授与される学位名において適切なものになっているか。

【観点に係る状況】

農学研究科の各コースの教育課程は、各コースの教育方針に沿って編成されており、教育目標に対応する科目群を大学院履修案内等で以下のように学生に明確に提示している。

教育課程の編成の一例（生命機能科学コースの例）

（生命機能科学コース）

本コースの教育課程は、生命現象と遺伝機能の化学的解明、生物の持つ特異的機能を利用した有用物質の生産、バイオテクノロジー手法を用いた生物機能の改良、食品生化学的・栄養生理学的手法による生物資源機能の解析、食品の加工・貯蔵技術及び安全性に関する研究・開発等、ライフサイエンス及びフードケミストリーに関する総合的かつ実践的な教育研究を行う。本コースでは、微生物から高等動植物にわたる多様な生物や様々な食品・生物資源を対象として、分子レベルにおける基礎から応用研究までの広範な領域における教育研究を実践するために、(1) 幅広い知識と研究手法について総合的な学習、(2) 高度な研究経験と専門知識の習得、(3) 専門的職業人・研究者に必要とされる情報処理能力、分析能力及びプレゼンテーション能力の習得を研究目標とする。

教育目標 1 に関して、1 年次に必修科目である「専攻共通科目」として「農学総合講義」、「基礎教育科目」として「生命機能科学特論」を開講している。

教育目標 2 に関しては、「コース必修科目」として、「先端分析化学特論Ⅰ」及び「先端分析化学特論Ⅱ」を開講している。「選択科目」としては、「生化学特論」、「タンパク質科学特論」、「機能プロテオミクス特論」、「ケミカルバイオロジー特論」、「構造生物学特論」、「タンパク質工学特論」、「微生物遺伝学特論」、「ウイルス学特論」、「応用微生物学特論」、「分子生物学特論」、「生物有機化学特論」、「分子細胞生物学特論」、「細胞情報学特論」、「微生物酵素学特論」、「極限環境微生物学特論」、「食品生化学特論」、「食糧流通貯蔵学特論」、「食品科学工学特論」、「バイオマス利用特論」、「食品化学特論」、「糖鎖工学特論」、「糖質機能科学特論」、「生物資源化学特論」、「食品機能科学特論」、「栄養化学特論」、「分子栄養学特論」、「脂質生化学特論」、「海洋資源化学特論」、「グリコバイオロジー特論」、「海洋天然物化学特論」、「マリンバイオ特論」を開講している。また、生命機能科学分野における最先端、かつ多様な研究活動の場を通じて研鑽を積むことを目標に「特別研究」が開講されている。

教育目標 3 に関して、学生同士が切磋琢磨する環境の中で、自ら研究課題を設定し、研究活動を実施することなどの想像力、自立力などを磨く教育として、「特別研究」の他に、「コース選択必修科目」として「生命化学演習」及び「食糧科学演習」を開講している。

(出典：平成 22 年度佐賀大学大学院農学研究科履修案内)

資料 2-1-3-1 平成 22 年度佐賀大学大学院農学研究科履修案内

【分析結果とその根拠理由】

農学研究科においては、最新の学問分野に関する授業科目である「特論」と、専門職業人への人材育成を目指す「演習」や「特別研究」をバランスよく配置し、さらに各コースの教育目的に沿った履修モデルを学生に提示していることから、教育課程が体系的に編成されており、授業科目の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿ったものになっている。

観点 5-4-③： 教育課程の編成又は授業科目の内容において、学生の多様なニーズ、研究成果の反映、学術の発展動向、社会からの要請等に配慮しているか。

【観点に係る状況】

農学研究科の教員は、学会などに毎年複数回参加し、最新の研究動向を入手し、担当授業科目の中で自分の研究とともに自ら属する専門分野の今後の発展動向などを紹介している。また、多様なニーズを持つ学生を教育する一環として、修了要件である 30 単位中 10 単位を指導教員と相談の上、他専攻や他研究科が開講する科目を履修することができる制度（資料 2-1-3-1）を設けている。

また、社会的な要求から夜間開講の体制を整備し、社会人の受入れを可能にしている（資料 2-1-3-1）。さらに、本修士課程修了者は、鹿児島大学大学院連合農学研究科博士課程に進学可能であり（資料 2-1-3-1）、佐賀大学大学院農学研究科の修了生に限り、入学検定料を免除している。また、進学者にはスムーズに博士課程に入れるよう教育研究の指導をしている。さらに、留学制度（資料 2-1-1-4）については、大学間学術交流協定を締結している諸外国の大学間で実施している。

平成 22 年度の大学院改組に伴い、農学研究科では副コースとして農業技術経営管理学コースを設置した。この副コースは、高度な農業技術と経営管理能力を有する人材の育成を目的とする実践的な教育カリキュラム（農業版MO T教育）からなり、農業法人や法人化を志向する集落営農組織等における中核的経営者、農政や農業団体における営農指導者、農業関連分野に新規に参入する企業等における指導的立場で働く企業人及びアジアの諸地域におけるアグリビジネス産業の発展に寄与できる人材等の育成を目指すプログラムとなっている。この教育プログラムを修了することによって、農学修士に加えて「佐賀大学農業技術経営管理学コース」の修了証及び農業技術経営管理士の称号が授与され、学生に対する多様な教育の提供と地域社会からのニーズ、学術の発展に応えるものとなっている。

農業技術管理学コースの修了要件と修了証及び称号の授与

この教育プログラムでは、経済学研究科の所定の授業科目を含む講義・演習・インターンシップ科目 11 単位と、インターンシップを含む修了研究 4 単位の合計 15 単位以上の取得によって、農学修士に加えて「佐賀大学農業技術経営管理学コース」の修了証及び農業技術経営管理士の称号が授与される。

（出典：平成 22 年度佐賀大学大学院農学研究科履修案内）

資料 2-1-3-1 平成 22 年度佐賀大学大学院農学研究科履修案内

資料 2-1-1-4 佐賀大学学生便覧（平成 22 年度）

【分析結果とその根拠理由】

自分の研究成果や専門分野の研究動向を授業科目に密接に反映させ、かつ他専攻や他研究科開講科目を履修する制度、留学制度、博士課程への進学優遇制度、夜間開講制度などを設けている。また、平成 22 年度からは経済学研究科と連携した副コースも設置する等、学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に配慮している。

5-5 教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等（研究・論文指導を含む。）が整備されていること。

観点 5-5-① 教育の目的に照らして、講義、演習等の授業形態の組合せ・バランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法が採用されているか。

【観点に係る状況】

農学研究科では、平成 22 年度の改組に伴い、カリキュラム編成においても 1 単位制講義を基本とするサブ・セメスター制度を導入し、柔軟なクロス履修による専門横断的な知識の修得を可能とした。また、専攻共通科目として農学総合講義 2 単位を必修とし、基礎教育科目 5 科目（各 1 単位）から 2 単位を選択必修とすることにより、農学における基礎的で広い知識も修得できるように配慮した。各コースでは、標準履修モデルを作成し、学生に周知することにより体系的な履修が行われるよう配慮されている。

農学研究科のコース標準履修モデルの一例（応用生物科学コース）

【応用生物科学コース】履修モデル

	専攻共通科目 (必修)	基礎教育 科目 (選択必修)	選択科目			特別研究 (必修)	単 位 数		
			コース 必修科目	コース 選択科目	自由選択科目				
2年後期 B				生物資源開発学演習Ⅱ		特別研究			
2年後期 A									
2年前期 B									
2年前期 A									
1年後期 B				生物資源開発学演習Ⅰ 熱帯作物生理学特論 動物行動学特論	応用遺伝資源学特論 応用植物生理学特論				
1年後期 A				生物資源開発学演習Ⅰ 動物資源開発学特論 植物病学特論 蔬菜花卉園芸学特論					
1年前期 B	農学総 合講義	生命機能 科学特論		インターンシップⅠ(集中) 生物資源開発学演習Ⅰ 先端線虫科学特論 果樹遺伝学特論					
1年前期 A		応用生物 科学特論		生物資源開発学演習Ⅰ 熱帯農業資源学特論 植物工学特論					
修了要件 単位数	2	2	0	14	2	10	30		

(出典：平成22年度佐賀大学大学院農学研究科履修案内)

各コースの標準履修モデルに沿って、それぞれのコースの教育目標に適した科目が体系的に配置、開講されている。大学院では、最新の学問分野に関する授業科目を「特論」として広く配置し、「特別研究」もバランスよく配置され、それぞれの研究テーマを通じて創造性に富んだ高度な科学技術・専門知識を持った専門職業人を養成する内容となっている（資料2-1-3-1）。

すなわち、各コースの開講科目中、学生が所属する講座の特別研究（10単位）及び指導教員の指導による授業科目を合わせて30単位以上を履修することとし、各専攻の全ての履修モデルは、1年前期に12～13単位、後期に10～13単位修得できるようにバランスよく開講している（資料2-1-3-1）。

農学研究科の履修方法

- ① 開講授業科目中、専攻共通科目2単位、基礎教育科目から2単位以上及び専門科目のうち各コースごとに各コース必修科目（特別研究10単位を含み、生命機能科学コースにあってはコース選択必修科目2単位以上を含む。）を含む26単位以上、計30単位以上を履修しなければならない。
- ② その他指導教員が必要と認め、履修願を提出の上履修した他コース及び他研究科等の授業科目については、10単位を限度として前項の30単位の中に含めることができる。

所属コースの特別研究	10 単位
専攻共通科目	2 単位
基礎教育科目	2 単位以上
所属コースの科目	16 単位以上（他コース及び他研究科等の授業科目 10 単位を含む。）
合 計	30 単位以上

（出典：平成 22 年度佐賀大学大学院農学研究科履修案内）

また、履修手続きは、ウェブ（資料 5-5-1-1）による履修登録としている。本研究科の演習、実験、実習は基本的にすべて少人数教育であり、演習科目では対話・討論型授業やフィールド型授業を実施し、学習指導に関する工夫をしている。

資料 2-1-3-1 平成 22 年度佐賀大学大学院農学研究科履修案内

資料 5-5-1-1 佐賀大学ホームページ（Live Campus）

http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/live_campus_006.html

【分析結果とその根拠理由】

研究科では、各コースで履修モデルを示し、それぞれの特性に応じて講義、演習、実験、実習等をバランス良く配置し、少人数教育、対話・討論型授業、フィールド型授業など目的に応じた学習指導の多様な工夫が凝らされていることから、教育の目的に照らして授業形態の組合せ・バランスは適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされている。

観点 5-5-②： 単位の实质化への配慮がなされているか。

【観点到に係る状況】

農学研究科では、カリキュラム編成（資料 5-5-2-1）において、無理のない十分配慮された授業時間配置をとっている。大学院生には、入学時に大学院教育小委員会委員による履修に際してのオリエンテーションを受けさせるとともに、指導教員の指導のもとに研究テーマを設定し、その研究内容に適した履修計画を策定させている（資料 2-1-3-1）。

また、学生の授業科目選択の参考として大学院履修案内に講義概要（資料 2-1-3-1）を、オンラインシラバス（資料 5-5-1-1）に授業計画、成績評価基準を記載している。

平成 20 年度からは、学生の学業成績に GPA を採用し（資料 2-1-1-4）、試験の解答例等を学生へ提示すること、答案・レポート等の閲覧ができることなどもオンラインシラバスで周知している（資料 5-5-1-1）。

資料 5-5-2-1 平成 21 年度佐賀大学大学院農学研究科授業時間割表（佐賀大学学務部教務課大学院係）

資料 2-1-3-1 平成 22 年度佐賀大学大学院農学研究科履修案内

資料 5-5-1-1 佐賀大学ホームページ（Live Campus）

http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/live_campus_006.html

資料 2-1-1-4 佐賀大学学生便覧（平成 22 年度）

【分析結果とその根拠理由】

カリキュラム編成において、十分配慮された授業時間配置をとっており、大学院小委員会委員や指導教員がきめ細かい履修指導をしている。また、試験の解答例等の提示、答案・レポート等の閲覧などを開始し、平成 20 年度からは、学生の学業成績に GPA を採用したことなどから、単位の実質化への配慮が適切になされている。

観点 5-5-③： 適切なシラバスが作成され、活用されているか。

【観点到に係る状況】

全科目のシラバスは、本学共通のシラバス作成要領に従って作成され、オンラインシラバスとして、ホームページに掲載している（資料 5-5-1-1）。このシラバスには、担当教員名・授業科目名・開講学期・開講曜日・時限などに加えて、授業計画・履修上の注意・成績評価の方法と基準・教科書・参考書・オフィスアワーを記しており、学生が授業科目を選択する上での適切な内容となっている。

大学院生は、入学時に配布する大学院履修案内（資料 2-1-3-1）に掲載されている授業科目概要及び履修モデルと、オンラインシラバスにある詳しい授業内容を参考にしながら、受講科目を決めることができる。

なお、シラバスの利用に関する平成 22 年度のアンケート結果（資料 5-5-3-1）によると、シラバスが科目選択の参考になったかどうかについては、中間から下でそう思わないとする否定的意見（1 及び 2）は 46.7% と比較的多い。これは、大学院履修案内等で提示されている各コースの標準履修モデルを参考にする傾向が強いためと思われる。また、シラバスで参考にする情報については、授業の内容が 61.5%、試験の情報が 23.1% と高く、シラバスも科目選択の重要な情報源となっていることがうかがえる。

シラバスは、科目選択の参考になったかどうかのアンケート調査

			そう 思 わ ない	2	3	4	そう 思 う	合計
専攻	生物生産学専攻	度数 専攻の%	0 0%	1 25.0%	2 50.0%	0 0%	1 25.0%	4 100.0%
	応用生物科学専攻	度数 専攻の%	4 36.4%	2 18.2%	1 9.1%	3 27.3%	1 9.1%	11 100.0%
合計		度数 専攻の%	4 26.7%	3 20.0%	3 20.0%	3 20.0%	2 13.3%	15 100.0%

（出典：平成 22 年度佐賀大学学生対象アンケート報告書）

シラバスはどのような情報を得るために利用したかのアンケート調査

			授業の方法	授業の内容	試験の情報	その他	合計
専攻	生物生産学専攻	度数 専攻の%	0 0%	4 100.0%	0 0%	0 0%	4 100.0%
	応用生物科学専攻	度数 専攻の%	1 11.1%	4 44.4%	3 33.3%	1 11.1%	9 100.0%

合計	度数 専攻の%	1 7.7%	8 61.5%	3 23.1%	1 7.7%	13 100.0%
----	------------	-----------	------------	------------	-----------	--------------

(出典：平成 22 年度佐賀大学学生対象アンケート報告書)

資料 5-5-1-1 佐賀大学ホームページ (Live Campus)

http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/live_campus_006.html

資料 2-1-3-1 平成 22 年度佐賀大学大学院農学研究科履修案内

資料 5-5-3-1 平成 22 年度佐賀大学学生対象アンケート報告書

(大学教育委員会・高等教育開発センター)

【分析結果とその根拠理由】

大学院履修案内にカリキュラム表、授業科目概要及び履修モデルが掲載されるとともに、オンラインシラバスにおいて詳細な各教科のシラバスが公開され、学生はこれらを参考にしながら授業科目の選択、授業内容の確認、試験情報の確認を行うなどその活用がされている。

観点 5-5-④： 夜間において授業を実施している課程（夜間大学院や教育方法の特例）を置いている場合には、その課程に在籍する学生に配慮した適切な時間割の設定等がなされ、適切な指導が行われているか。

【観点に係る状況】

大学院においては、企業等に在職のまま入学を希望する社会人に対して、入学後も社会人が学びやすいように大学院設置基準第 14 条に定める教育方法の特例措置を実施している。希望者には、指導教員の指導により、履修方法や授業等の実施時間帯等の履修計画を立てさせるようにしている。また、特例による夜間の授業時間は第 1 時限 18:00～19:30 とし、14 単位までを課程修了に必要な単位数（30 単位）に含めることができるように配慮している（資料 2-1-3-1）。

また、平成 22 年度の大学院改組に伴い設置した副コース（農業技術経営管理学コース）では、社会人が主対象であるため、社会人が受講する科目は夜間又は集中で開講する配慮を行っている。また、開講科目は 1, 2 年時にバランスよく配置され、社会人の履修に無理のない体系となっている。

副コース（農業技術経営管理学コース）の授業科目

科目 区分	コース	授 業 科 目	単 位 数	担当教員	毎 週 授 業 時 数								備 考	
					22 年 度				23 年 度					
					前期		後期		前期		後期			
					前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半		
(農業技術経営管理学コース)														
経営 管理 部門		農産物市場流通特論	1	白 武 義 治		2				2				
		農業政策学特論	1	小 林 恒 夫			2					2		
		農業経営学特論	1											
		農村地理学特論	1	五十嵐 勉	2				2					
		地域資源開発学特論	1											
		農村社会学特論	1	藤 村 美 穂		2				2				
		アジア農村開発学特論	1											
		国際環境保健学特論	1	稲 岡 司		2				2				
		マーケティング特論Ⅰ	1	岩 永 忠 康					2					
		マーケティング特論Ⅱ	1	岩 永 忠 康						2				
		経営分析特論Ⅰ	1	山 下 寿 文							2			
		経営分析特論Ⅱ	1	山 下 寿 文								2		
		知的財産と法特論Ⅰ	1	岩 本 諭			2							
		知的財産と法特論Ⅱ	1	岩 本 諭				2						
	生物 管理 部門		農業経済研究特論Ⅰ	1	品 川 優	2								
			農業経済研究特論Ⅱ	1	品 川 優		2							
		管理会計特論Ⅰ	1	小 川 哲 彦			2							
		管理会計特論Ⅱ	1	小 川 哲 彦				2						
		熱帯農業資源学特論	1	野 瀬 昭 博	2				2					
		動物繁殖生理学特論	1	川 原 学				2					2	
環 境 管 理 部 門		果樹育種学特論	1	松 本 亮 司	2				2					
		蔬菜花卉園芸学特論	1	一 色 司 郎			2					2		
		植物感染病学特論	1	草 場 基 章		2				2				
		植物病学特論	1	大 島 一 里			2					2		
		線 虫 学 特 論	1	吉 賀 豊 司	2					2				
		利水情報工学特論	1	原 口 智 和	2					2				
生 産 管 理 部 門		農地計画学特論	1	近 藤 文 義		2				2				
		土地生産機能学特論	1	未 定										
		植物環境調節学特論	1	井 上 興 一	2					2				
		土 壌 物 理 学 特 論	1	長 裕 幸			2					2		
		リモートセンシング工学特論	1	未 定										
		生産地盤工学特論	1	未 定										
食 品 管 理 部 門		施設農業生産学特論	1	田 中 宗 浩	2					2				
		応用植物生理学特論	1	鈴 木 章 弘				2					2	
		作物生産生理学特論	1	鄭 紹 輝	2				2					
		雑草生態学特論	1	(未 定)										
		家畜管理学特論	1	尾 野 喜 孝					2				2	
		作物生態学特論	1	有 馬 進					2				2	
食 品 管 理 部 門		生産情報処理学特論	1	稲 葉・北 垣	2					2				
		農用先端機械学特論	1	(未定)・稲葉					2				2	
		生産生態学特論	1	上 埜 喜 八			2					2		
		土 壌 学 特 論	1	染 谷 孝	2					2				
		ウイルス学特論	1	神 田 康 三		2				2				
		微生物学特論	1	小 林 元 太		2				2				
食 品 管 理 部 門		食糧流通貯蔵学特論	1	藤 田 修 二		2				2				
		食品科学工学特論	1	林 信 行	2					2				
		食品化学特論	1	光 富 勝			2					2		
		食品機能学特論	1	柳 田 晃 良	2					2				
	修了研究(研究指導)	4							2	2	2	2		

備考： は主コースの専門科目と同一

(出典：平成22年度佐賀大学大学院農学研究科履修案内)

資料 2-1-3-1 平成22年度佐賀大学大学院農学研究科履修案内

【分析結果とその根拠理由】

大学院では、社会人学生の希望があれば指導教員の指導により、特例による夜間の授業を実施し、夜間開講科目 14 単位までを課程修了に必要な単位数に含めるなど、社会人学生に配慮した適切な時間割の設定がなされ、適切な指導が行われている。また、社会人が多く履修する副コースにおいては、夜間や集中で科目を開講する等配慮されたカリキュラムとなっている。

観点 5-5-⑤： 通信教育を行う課程を置いている場合には、印刷教材等による授業（添削等による指導を含む。）、放送授業、面接授業（スクリーニングを含む。）若しくはメディアを利用して行う授業の実施方法が整備され、適切な指導が行われているか。

【観点に係る状況】

該当なし

【分析結果とその根拠理由】

該当なし

観点 5-5-⑥： 専門職学位課程を除く大学院課程においては、研究指導、学位論文（特定課題研究の成果を含む。）に係る指導の体制が整備され、適切な計画に基づいて指導が行われているか。

【観点に係る状況】

学生ごとに所属研究室と指導教員を定め、研究テーマに関する打合せを行い、研究指導実施計画書（資料 5-5-6-1）を作成し、それに基づき研究指導を実施している（資料 2-1-3-1）。適宜、研究の中間報告会を実施し、複数の教員により、各学生の研究に対する助言、指導を行っている。論文執筆に当たっては、学位論文の審査委員となった複数の教員（副査として 2 人以上）の指導を受けている（資料 5-5-6-2）。

修士論文に係る評価基準は、大学院履修案内（資料 2-1-3-1）とオンラインシラバス（資料 5-5-1-1）に明記するとともに、大学院履修案内を学生全員に配布し、さらに、入学時及び初回授業時にガイダンスを実施し、周知している。

修士論文及び最終試験の評価は、主査（1 人）及び副査（2 人以上）の教員が行い、「修士論文および最終試験の評価基準」（資料 2-1-3-1）に基づき、提出論文の内容、学位論文発表会での発表及び質疑応答内容などにより、各教員が 100 点満点の採点制により、その平均点において、60 点以上を合格としている。

資料 5-5-6-1 研究指導の実施に関する報告書

資料 2-1-3-1 平成 22 年度佐賀大学大学院農学研究科履修案内

資料 5-5-6-2 平成 22 年度研究科委員会資料（農学部総務係：修士指導・審査教員氏名一覧表）

資料 5-5-1-1 佐賀大学ホームページ（Live Campus）

http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/live_campus_006.html

【分析結果とその根拠理由】

研究指導、論文執筆、論文発表は、それぞれの専攻における複数の指導教員により常時、計画的かつ適切に行われていることから、教育課程の趣旨に沿った研究指導、学位論文に係る指導の体制が整備され、適切な計画に基づいて指導が行われている。

学位論文に係る評価基準は、入学時や授業開始時のガイダンスなどにより周知され、学位論文の審査については学位審査細則に基づき、厳格に実施されており、適切な審査体制が整備され、機能している。

5-6 学位授与方針が明確に定められ、それに照らして、成績評価や単位認定、修了認定が適切に実施され、有効なものになっていること。

観点5-6-①： 学位授与方針が明確に定められているか。

【観点に係る状況】

農学研究科では、以下のような学位授与の方針が明確に定められ、ホームページで公開するとともに、大学院履修案内等で学生に周知している。

農学研究科の学位授与の方針

佐賀大学大学院農学研究科の教育目的に沿った知識・技能を修得し、以下に示した学生が身につけるべき具体的学習成果の達成を学位授与の方針とする。

この方針に従って教育課程を編成・実施し、佐賀大学大学院農学研究科履修細則に定められた所定の単位を修め、修士論文審査に合格した者に対して修士（農学）の学位を授与する。

- 1 高い倫理意識と国際性豊かな教養を有し、情報収集・分析能力及び優れたコミュニケーション能力を活かして、企業や社会において指導的立場で能力を発揮できる力を身につけている。
- 2 生物資源の開発と制御、環境保全と持続的農業生産、生命化学と食糧科学、地域社会の持続可能な開発などの分野で、先端的・応用的・実用的な能力を身につけている。
- 3 中北部九州及びアジアの諸地域における地域農業組織・企業・団体・行政・研究所等の職場で、実行力をもって活躍できる力を身につけている。

（出典：佐賀大学学生センターホームページ）

【分析結果とその根拠理由】

農学研究科では、学位授与の方針が明確に定められ、ホームページで公開するとともに、大学院履修案内等で学生に周知していることから、適切に実施されている。

観点 5-6-②： 成績評価基準が組織として策定され、学生に周知されており、その基準に従って、成績評価、単位認定が適切に実施されているか。

【観点に係る状況】

各授業の成績評価基準、修士論文、最終試験の評価基準及び修了認定基準は、大学院履修案内（資料 2-1-3-1）とオンラインシラバス（資料 5-5-1-1）に明記するとともに、大学院履修案内を学生全員に配布し、特に、成績評価基準については入学時及び各教員の初回授業時にガイダンスを実施し、周知している。

研究科の修了認定は、修了認定基準及び最終試験の評価基準に基づき、最初に提出論文の内容、学位論文発表会での発表及び質疑応答内容などにより、厳格に評価し、次に学位論文の単位を含めた修得単位数をもとに各専攻で修了認定審査を行い、さらに大学院教育小委員会で審議後、最終的には研究科委員会（資料 5-6-2-1）において認定を行っている。

資料 2-1-3-1 平成 22 年度佐賀大学大学院農学研究科履修案内 p12～13

資料 5-5-1-1 佐賀大学ホームページ（Live Campus）

http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/live_campus_006.html

資料 5-6-2-1 平成 22 年度研究科委員会議事録（農学部総務係：大学院修了認定資料）

【分析結果とその根拠理由】

成績評価基準及び修了認定基準は、大学院履修案内やオンラインシラバスに明記するとともに、入学時及び初回授業時にガイダンスを実施し、学生全員に周知している。また、研究科の修了認定は、修了認定基準及び最終試験の評価基準に基づき、厳格に評価し、修了認定を行っており、成績評価、単位認定、修了認定が適切に実施されている。

観点 5-6-③： 成績評価等の客観性、厳格性を担保するための組織的な措置が講じられているか。

【観点に係る状況】

成績評価等の正確さを担保するための措置として、平成 20 年度から学業成績に G P A（資料 2-1-1-4）を採用し、さらに教員による成績評価判定資料の保管、学生に対する試験の解答例等の提示、答案・レポート等の閲覧などを開始した（資料 5-2-1-1）。また、成績の厳格評価の結果として生ずることが予測される学生からのクレームへの対応のために、「成績評価の異議申立てに関する要項」（資料 2-1-1-4）を平成 18 年度に定めた。

資料 2-1-1-4 佐賀大学学生便覧（平成 22 年度）

資料 5-2-1-1 佐賀大学ホームページ Live Campus（オンラインシラバス）

【分析結果とその根拠理由】

平成 20 年度から学業成績に G P A を採用し、さらに成績評価判定資料の保管、学生に対する試験の解

答例等の提示、答案・レポート等の閲覧などを開始しており、成績評価等の正確さを担保するための措置が講じられている。

観点5-6-④： 専門職学位課程を除く大学院課程においては、学位授与方針に従って、学位論文に係る評価基準が組織として策定され、学生に周知されており、適切な審査体制の下で修了認定が適切に実施されているか。また、専門職学位課程においては、学位授与方針に従って、修了認定基準が組織として策定され、学生に周知されており、その基準に従って、修了認定が適切に実施されているか。

【観点に係る状況】

修士論文に係る評価基準は、大学院履修案内（資料 2-1-3-1）とオンラインシラバス（資料 5-5-1-1）に明記するとともに、大学院履修案内を学生全員に配布し、さらに、入学時及び初回授業時にガイダンスを実施し、周知している。

修士論文及び最終試験の評価は、主査（1人）及び副査（2人以上）の教員が行い、「修士論文および最終試験の評価基準」（資料 2-1-3-1）に基づき、提出論文の内容、学位論文発表会での発表及び質疑応答内容などに基づき、各教員の100点満点の採点制により、その平均点において、60点以上を合格としている。

資料 2-1-3-1 平成 22 年度佐賀大学大学院農学研究科履修案内 p13

資料 5-5-1-1 佐賀大学ホームページ（Live Campus）

http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/live_campus_006.html

【分析結果とその根拠理由】

学位論文に係る評価基準は、入学時や授業開始時のガイダンスなどにより周知され、学位論文の審査については学位審査細則に基づき、厳格に実施されており、適切な審査体制が整備され、機能している。

（2）優れた点及び改善を有する点

【優れた点】

農学研究科では、平成 22 年度の組織改組に伴い、経済学研究科とも連携した副コースを設置し、広く社会からの要望に応える教育課程を編成している。

【改善を要する点】

特になし

（3）自己評価の概要

農学部及び農学研究科では、教育課程の編成・実施方法（カリキュラム・ポリシー）が明確に定めら

れ，それに基づいて教育課程が体系的に編成されている。また，学位授与方針も明確に定められ，それに照らして，成績評価や単位認定，修了認定が適切に実施されており，その内容，水準が授与される学位名においても適切である。

6 学習成果

(1) 観点ごとの分析

6-1 教育の目的や養成しようとする人材像に照らして、学生が身に付けるべき知識・技能・態度等について、学習成果が上がっていること。

観点 6-1-①：各学年や卒業（修了）時等において学生は身に付けるべき知識・技能・態度等について、単位修得、進級、卒業（修了）の状況、資格取得の状況等から、あるいは卒業（学位）論文等の内容・水準から判断して、学習成果が上がっているか。

【観点到係る状況】

農学部

農学部教育委員会は、各学年終了時及び卒業時まで身に付ける学力や能力、資格取得の状況、あるいは卒論、修論の内容・水準を検討し、教育の成果や効果を確認している（資料 6-1-1-1）。履修放棄者を除いた専門科目の単位修得率は高く、演習・実験・実習では 95% を超え、講義形態の科目では約 90% を超える。

専門科目の授業形態別単位修得率（平成 22 年度）

講 義	演 習	実験実習
91.9%	99.8%	99.2%

備考：数値は、受講者数に対する単位修得者の割合を示す。履修放棄者は除く。

（出典：教務情報システム成績管理データ）

農学部における教育において最も重要な科目と位置付けている卒業研究は、指導教員によるマンツーマンに近い指導を受けながら実施されており、大きな教育効果が得られている。

農学研究科

次の表は、平成 18～22 年度における、大学院生等が関係した研究成果（学会発表及び研究論文数）である。大学院生の在籍者数は各年度 50 人（定員）内外であることから、平成 20 年度までは少なくとも大学院生の 1 人が毎年学会発表を行い、概ね 2 人に 1 人が論文を発表していることになり、大学院生の研究活動は活発である。

なお、平成 21 年度の数値が低下しているのは、平成 21 年度から業績の入力システムが学部単位から全学単位に変わり、教員のウェブ入力率が低かったのが原因である。平成 22 年度は、平成 20 年度以前の水準に戻っている。

大学院修士学生の学会発表・論文発表数

区分	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
学会発表数(回)	90	67	73	45	70
論文発表数(件)	27	22	22	16	28

注：論文発表数は、学生が学術雑誌（紀要，論文集等も含む。）に発表したもの
（査読中・投稿中のものは除く。）

また、修士の学位に関する厳格な審査（資料 6-1-1-1）を行っている中で、平成 22 年度における全在籍者数に対する修了者の割合（修了率）は、86%（38 人／44 人）であり、平成 21 年度入学生の修了率は 90%（36 人／40 人）と高く、教育の成果は上がっている。平成 18～21 年度の 4 年間の修了率も合計で 89～95%と良好である。

平成 22 年度農学研究科修了者数（平成 23 年 3 月 24 日付け）

専攻	在籍者数			修了者数			留年者数		
	20年入学	21年入学	計	20年入学	21年入学	計	20年入学	21年入学	計
生物生産学専攻	2	18	20	1	16	17	1	2	3
応用生物科学専攻	2	22	24	1	20	21	1	2	3
合計	4	40	44	2	36	38	2	4	6

（出典：農学研究科委員会資料（平成 23 年 3 月 9 日））

農学研究科における年度別修了率（平成 22 年 5 月現在）

専攻	平成18年度			平成19年度			平成20年度			平成21年度		
	在籍者数	修了者数	修了率	在籍者数	修了者数	修了率	在籍者数	修了者数	修了率	在籍者数	修了者数	修了率
生物生産学専攻	30	29	97%	17	15	88%	22	20	91%	29	27	93%
応用生物科学専攻	32	30	94%	25	23	92%	26	23	88%	28	24	86%
合計	62	59	95%	42	38	90%	48	43	90%	57	51	89%

（出典：教務課大学院係記録）

平成 22 年度の大学院改組に伴い、新しく設置した副コース（農業技術経営管理学コース）には、社会人を対象とした講座（農業技術経営管理士育成講座）に 12 人、2 年次在籍学生を対象としたプログラム（農業技術経営管理者育成プログラム）に 1 人の受講者があり、全員論文審査を含む単位を修得して修了している。

これら大学院の各教育カリキュラムにおける良好な修了率から学習効果は上がっていると判断される。

平成 22 年度副コース修了者数（平成 23 年 3 月 24 日付け）

講座・プログラム	在籍者数	修了者数
農業技術経営管理士養成講座	12	12

農業技術経営管理者養成プログラム	1	1
合計	13	13

(出典：農学研究科委員会資料 (平成 23 年 3 月 9 日))

資料 6-1-1-1 佐賀大学農学部自己点検・評価報告書 (平成 18, 19, 20 年度)

資料 2-1-3-1 平成 22 年度佐賀大学大学院農学研究科履修案内

【分析結果とその根拠理由】

農学部

単位修得率ならびに卒業研究の内容から、教育の成果は上がっていると判断される。

農学研究科

年度毎の学会発表数や論文発表数から、少なくとも大学院生の 1 人は学会で発表しており、2 人に 1 人は論文を雑誌に発表している。また、厳格な修了条件の中で、平成 22 年度から設置した副コースを含め、修士課程の過去 5 年間の修了率は良好であることから、教育の成果や効果が上がっていると判断される。

観点 6-1-②： 学習の達成度や満足度に関する学生からの意見聴取の結果等から判断して、学習成果が上がっているか。

【観点に係る状況】

農学部

授業評価アンケートの結果では、各学科・コースともに 60%以上の満足度になっている(資料 6-1-2-1)。卒業・修了予定者アンケートについても、講義科目で 61%、演習科目で 71%、実験科目で 73%の満足度となっている。また、81%の学生が専門的な知識や技能について大学生活を通して習得できたと回答している(資料 6-1-2-2)。

平成 22 年度の授業評価における満足度 5 と 4 の割合 (専門必修科目と選択科目の合計)

	満足度 5 と 4 の割合 (%)		
	応用生物科学科	生物環境科学科	生命機能科学科
専門必修科目	85.8	73.6	77.0
専門選択科目	71.4	73.7	71.8

(出典：平成 22 年度佐賀大学農学部組織別授業評価報告書)

農学研究科

農学研究科の理念、目的に沿った教育成果や効果が十分上がっているかについては、大学院生による授業評価、修了生を対象としたアンケート調査及び学生対象アンケート調査などを通じて、評価を行っ

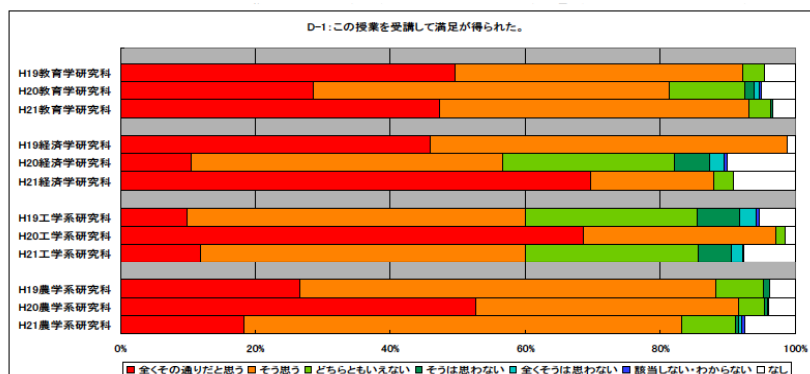
ている。

大学教育委員会が行っている授業評価（資料 6-1-2-1）において、授業を聞いて興味が増したとする大学院生は 80%以上であり、また授業の満足度については、前年度よりやや低下しているが、肯定的意見が 80%以上で高水準を維持しており、概ね教育の効果が上がっていると判断される。

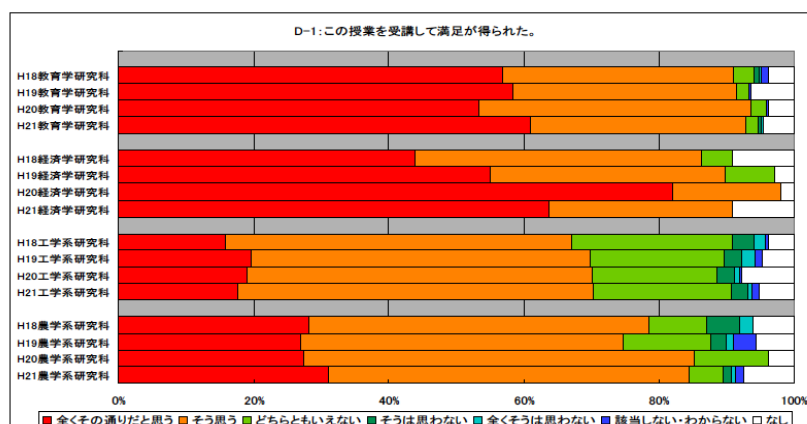
一方、大学教育委員会及び高等開発教育センターが行った平成 21 年度の学生対象アンケート（資料 6-2-2-2、回収率 46.8%）では、去年よりやや下がったものの、70%近くの学生（4 ポイント以上）が教員の研究指導は適切であると感じている。

さらに、修了（予定）者を対象としたアンケート調査（資料 5-5-3-1）では、農学研究科が教育効果を期待する項目について、多くの項目でややできた・かなりできたとする比率の合計が多くの項目で 50%を超えるが、就職に結びつく技能、創造性、一般教養、異文化理解などが、あまり修得できていない、わからないと判断をしている学生が多く、この対応を今後検討する必要がある。

この科目を受講してみて、満足が得られたかどうかに関するアンケート調べ



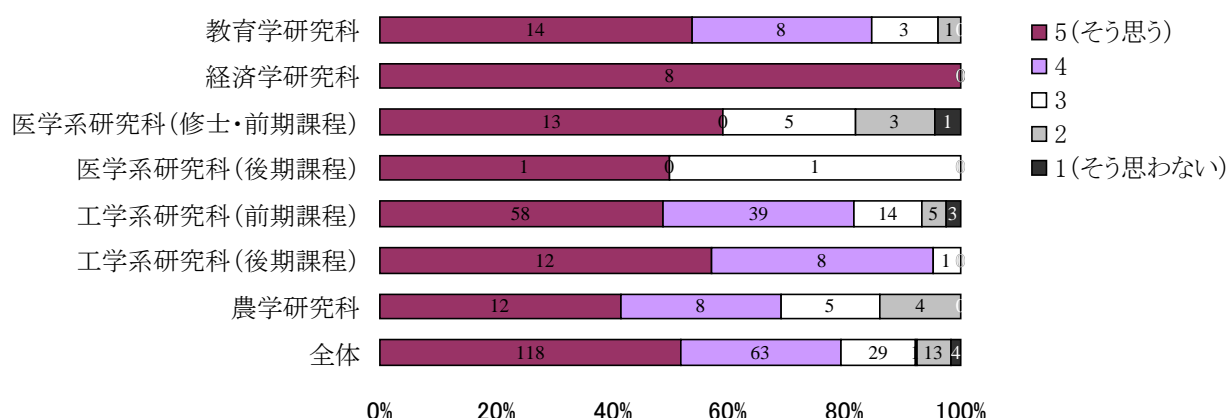
前期



後期

（出典：平成 21 年度佐賀大学授業評価・改善に関する報告書 p54）

指導教員による研究指導の適切性



平成 22 年度農学研究科修了者におけるアンケート調査（回収率 43%，17/40 人）

(%)

項目	まったくできなかった	あまりできなかった	どちらともいえない	ややできた	かなりできた	合計
専門的な知識と技能		5.9		82.4	11.8	100.0
就職に結びつく技能	6.3	25.0	12.5	43.8	12.5	96.0
分析し批判する能力		5.9	11.8	64.7	17.6	100.0
社会に適応する能力	5.9	11.8	23.5	52.9	5.9	100.0
コミュニケーション能力(対人関係)		17.6	17.6	58.8	5.9	100.0
コミュニケーション能力(語学力)	5.9	41.2	5.9	41.2	5.9	100.0
プレゼンテーション技術		5.9	11.8	58.8	23.5	100.0
ディベート(議論・討論)の能力		17.6	29.4	41.2	11.8	100.0
資料や報告書を作成する能力		5.9	11.8	70.6	11.8	100.0
創造性		11.8	23.5	58.8	5.9	100.0
一般教養		5.9	35.3	52.9	5.9	100.0
異文化理解		17.6	29.4	35.3	17.6	95.8
研究能力			11.8	76.5	11.8	100.0
課題を探求する能力		5.9	11.8	76.5	5.9	100.0
問題を解決する能力			23.5	70.6	5.9	100.0

(出典：平成 22 年度佐賀大学共通アンケート調査（卒業・修了予定者対象）報告書）

資料 6-1-2-1 平成 21 年度佐賀大学農学部組織別授業評価報告書

資料 6-1-2-2 平成 22 年度佐賀大学卒業・修了予定者アンケート基礎集計表

資料 5-5-3-1 平成 21 年度学生対象アンケート報告書

【分析結果とその根拠理由】

農学部

授業評価アンケートや卒業・修了予定者アンケートの結果から、授業に対する満足度は比較的高く、ほとんどの学生が大学生活を通して専門的な知識や技能を修得できたと回答していることから、教育の成果や効果が上がっていると判断される。

農学研究科

大学院生による授業評価、修了生に対するアンケート調査等から判断して、教育の成果や効果は概ね上がっている。

6-2 卒業（修了）後の進路状況等から判断して、学習成果が上がっていること。

観点6-2-①： 就職や進学といった卒業（修了）後の進路の状況等の実績から判断して、学習成果が上がっているか。

【観点に係る状況】

農学部

卒業生の進路は、経済状況（景気）の影響を受ける面があるが、総合科学である農学部の特性を反映して、公務員、JA、食品、化学工業など、様々な分野へ進出しており、農学部卒業生の過去5年の就職率は上昇している。

農学部卒業生の就職率

区 分	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
農学部卒業生	86.0%	90.3%	96.9%	97.9%	95.4%	89.0%

（出典：キャリアセンターホームページ <http://job.admin.saga-u.ac.jp/job/pdf/tiikibetu.pdf>）

農学研究科

就職や進学といった進路状況等について、農学研究科は就職委員会を組織して、現状を定量的に把握し、教育成果や効果を調査している。平成22年度の修了生の就職率は、96.4%であり、前年度を大きく上回り、昨今の就職難の環境にあっても高い就職率をあげている。また、進学者も10人（修了生全体40人の25%）と進学率増加の傾向が認められる。

また、各専攻が意図している人材像に学生が近づいているという意味（履修モデルを推奨）では、就職者のほとんどが専門分野に就職していることから、専門職業人の養成に関する教育の成果や効果が上がっていると判断される。

修了生の進学及び就職状況

年 度	修了生数	進学者	就職者	その他
-----	------	-----	-----	-----

20	43	5	33	5
21	51	9	32	10
22	40	10	27	2

(出典：平成22年度佐賀大学キャリアセンター就職統計)

平成22年度農学研究科修了生の就職先

産業分類	生物生産学	応用生物科学	合計
農業，林業	1	0	1
卸売業	0	2	2
食料品・飲料・たばこ・飼料製造業	3	7	10
業務用機械器具製造業	0	1	1
化学工業・石油・石炭製品等製造業	0	2	2
情報通信業	1	0	1
学術研究，専門・技術サービス業	1	1	2
教育，学習支援業	0	1	1
飲食，生活関連サービス業	0	2	2
複合サービス事業	1	1	2
地方公務（教員を除く）	1	2	3
総計	8	19	27

(出典：平成22年度佐賀大学キャリアセンター就職統計)

資料 2-1-1-2 佐賀大学農学部・大学院農学研究科概要（平成22年度）

【分析結果とその根拠理由】

農学部

就職実績から判断して、教育の成果は上がっている。

農学研究科

平成22年度の修了生の就職率は、96.4%であり、前年度を大きく上回り、昨今の就職難の環境にあって高い就職率をあげている。なお、専門職業人の養成に関しては、ほとんどの就職者が専門分野へ就職していることから、教育の成果の効果は上がっており、専門教育の効果も十分上がっている。

観点6-2-②：卒業（修了）生や、就職先等からの意見聴取の結果から判断して、学習成果が上がっているか。

【観点に係る状況】

農学部

農学部卒業後又は大学院農学研究科修士課程修了後3年以内を対象としてアンケート調査を実施した

結果、自己評価の結果が良好（評価段階4以上）とした者の割合は48%であり、農学部・農学研究科における教育の効果はかなり上がっているといえる。

学部卒業者・大学院修了者からの回答

事項	評価段階					平均 評価点
	5	4	3	2	1	
①行動力・実行力	3	9	3	1	0	3.9
②熱意・意欲	3	10	3	0	0	4.0
③論理的思考力	2	4	7	3	0	3.3
④創造的思考力	1	5	6	4	0	3.2
⑤一般常識・教養	1	8	6	1	0	3.6
⑥専門知識	0	3	9	4	0	2.9
⑦コミュニケーション能力	4	6	6	0	0	3.9
⑧プレゼンテーション能力	1	2	8	4	1	2.9
合計 (%)	15 (11.7%)	47 (36.7%)	48 (37.5%)	17 (13.3%)	1 (0.8%)	

備考1：各設問事項について、優れているものを「5」、劣っているものを「1」とし、5段階で評価した。

備考2：合計欄の%は、回答総数に対する割合を示す。

備考3：平均評価点は、各評価項目の評価段階×回答数を合計回答数で除した値である。

上司からの回答

事項	評価段階					平均 評価点
	5	4	3	2	1	
①行動力・実行力	4	8	1	0	0	4.2
②熱意・意欲	4	8	1	0	0	4.2
③論理的思考力	2	7	4	0	0	3.8
④創造的思考力	1	6	6	0	0	3.6
⑤一般常識・教養	5	5	3	0	0	4.2
⑥専門知識	3	4	4	1	0	3.8
⑦コミュニケーション能力	3	9	1	0	0	4.2
⑧プレゼンテーション能力	2	6	4	1	0	3.7
合計 (%)	24 (23.3%)	53 (51.5%)	24 (23.3%)	2 (1.9%)	0 (0.0%)	

注：各設問事項についての説明は、「学部卒業者・大学院修了者からの回答」の備考を参照

農学研究科

修了生（予定者）のアンケート結果では、本研究科の教育の成果や効果は、概ね上がっていると判断される。

農学部就職委員会では、平成20年度に農学部卒業後あるいは大学院修士課程修了後3年以内の者を対象として、就職先へのアンケート調査を行った。このアンケート結果によると、総合評価として佐賀大学卒業生・修了生の80%以上が平均より良好とする自己評価をしており、上司の評価では全ての項目で佐賀大学卒業生・修了生の自己評価を上回り、高い評価を得た。平成22年度は、この種のアンケート調査を行っていない。今後、継続して実施する必要がある。

また、農学研究科では後援会の支援により各専攻主任の教員が就職支援活動の一環として会社訪問を行い、就職した学生の働きぶりを聞き取り調査するとともに、求人への依頼を行っている。

資料 6-2-2-1 平成20年度アンケート調査報告書（農学部卒業生・大学院修了者・就職先上司） p1～17

資料 6-2-2-2 平成20年度企業アンケート調査報告書

【分析結果とその根拠理由】

農学部

就職先の職場上司による評価の結果は、学部卒業生・大学院修了者による自己評価の結果より高く（約75%）、農学部・農学研究科における教育の効果は高く評価されている。

農学研究科

修了生のアンケート結果及び就職先等の関係者からの意見聴取の結果から判断すると、教育の成果や効果は概ね上がっている。平成20年度就職先でのアンケート結果では、学部卒業生・大学院修了者に対して上司の高い評価を得ており、農学部及び農学研究科における教育の効果は高いと判断される。

（2）優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

農学部及び農学研究科では、学生の履修状況、研究発表成果や修了状況、また各種アンケート調査から、学習成果が上がっている。

【改善を要する点】

特になし

（3）自己評価の概要

農学部及び農学研究科では、学生の履修状況、研究発表成果や修了状況、また各種アンケート調査から、学習成果が上がっているものと判断される。

7 施設・設備及び学生支援

(1) 観点ごとの分析

7-1 教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備等が整備され、有効に活用されていること。

観点7-1-①： 教育研究活動を展開する上で必要な施設・設備が整備され、有効に活用されているか。また、施設・設備における耐震化、バリアフリー化、安全・防犯面について、それぞれ配慮がなされているか。

【観点到に係る状況】

農学部は、1号館から4号館の建物の他に、圃場、大型温室を含む温室等を有しており、年間を通して活用している（資料7-1-1-1）。平成21年度には、老朽化して危険になった温室6棟を建て替え、整備した。附属資源循環フィールド科学教育研究センターには、農場及び畜産設備があり、農場実習や学生の学位論文や卒業論文作成等に有効に利用されている。また、平成21年度には、老朽化した温室1棟を建て替え、整備した。学内共同教育研究施設である海浜台地生物環境研究センターは、フィールドを重視した教育研究に必要な施設・設備を整備し、活用できるようにしてある。

農学部共通の講義室は、1号館に9室あり、学部及び大学院の講義に利用されている。さらに、少人数の講義や研究指導を円滑に運用するためのセミナー室、学部の卒業研究や大学院の特別研究を行う学生の研究室や実験室を整備している。大学院生用の多目的講義室及び演習室は、学部教育のためにも活用できる。

平成22年度 農学部講義室使用率（1週間）

講義室等名称	収容人員	学内外使用回数				用途別使用回数			使用率 (%)
		部局	他部局	学外者	合計	講義等	自習等	研修会等	
農学部第1講義室	48	98		10	108	89	9	10	44
農学部第2講義室	48	60		10	70	60		10	44
農学部第3講義室	84	66	12	10	88	63	15	10	64
農学部第4講義室	48	57		5	62	53	4	5	40
農学部第5講義室	81	57	8	5	70	43	22	5	44
農学部大講義室	204	41	38	9	88	65		23	72
農学部学生演習室	30	15			15	12	3		4
大学院多目的講義室	48	48			48	41	7		28
大学院演習室	10	41			41	31	10		—

(農学部教務より)

資料 7-1-1-1 圃場・施設等年間利用状況

資料 2-1-1-4 佐賀大学学生便覧（平成 22 年度）

資料 2-1-1-3 農学部履修の手引（平成 22 年度）

【分析結果とその根拠理由】

農学部の目的に即した施設・設備が整備され、活用されている。身障者の学習等に配慮したバリアフリー化が進められている。

観点 7-1-②： 教育研究活動を展開する上で必要な ICT 環境が整備され、有効に活用されているか。

【観点に係る状況】

農学部

農学部では、ほぼすべての研究室、演習室、実験室にインターネットの有線 LAN 端末及び大学が管理する 10ヶ所の無線 LAN ポートを設けている（資料 7-1-2-1）。

農学部無線 LAN 設置一覧

No.	設置場所
1	農学部運営会議室（農学部 1 号館南棟 1F）
2	生物学学生実験室（農学部 1 号館中棟 1F）
3	第 2 講義室（125）前廊下（農学部 1 号館南棟—中棟 1F）
4	農学部 101 講義室（農学部 1 号館南棟 1F）
5	第 4 講義室（233）前廊下（農学部 1 号館南棟 2F）
6	環境資源学学生演習室前廊下（農学部 4 号館 1F）
7	教員研究室前廊下（農学部 4 号館 2F）
8	農学部合併教室（大講義室）
9	農学部 4 号館 5F
10	林研究室（農学部 1 号館）

学生には、入学後すぐにインターネット・アドレスが与えられ、個人用ならびに附属図書館あるいは情報演習室に設置しているパソコンを用いて、就学に必要な情報を学内及び学外から自由に得ることができる。科目履修と学生生活に関しては、それぞれ農学部教育委員及び農学部学生委員へ直接アクセスできるメールアドレスを設けている（資料 2-1-1-3）。学生センターには、インターネットと携帯電話からアクセスできるアドレスを設けている。さらに、各教育研究分野（研究室）の自習スペースには合計 125 台のパソコンが設置されている（資料 7-1-2-2）。

また、平成 21 年度に農学部マルチメディア情報室を整備し、新たにパソコン 30 台を設置して、学部の情報教育に活用できるようにした。

農学研究科

農学研究科では、ほぼすべての研究室、演習室、実験室にインターネットの有線LAN端末及び無線LANポート（10ヶ所）を設けている（資料 7-1-2-1）。学生には、入学後すぐにインターネット・アドレスが与えられ、個人用ならびに附属図書館あるいは情報演習室に設置しているパソコンを用いて、就学に必要な情報を、学内及び学外から自由に得ることができる。各研究室の自習スペースには有線LANが設置され、52台のパソコンが設置されている（資料 2-1-1-3）。また、平成 21 年度にマルチメディア情報室を整備し、新たにパソコン 30 台を設置して、大学院における情報教育に活用している。

平成 22 年度の学生アンケートによれば、学部、学科のパソコン数に概ね満足（満足及びやや満足）している大学院生は 60%であり、研究室のパソコン数に概ね満足（満足及びやや満足）している大学院生は 64.7%であった。研究科や研究室では、パソコンは個人で持つように指導しているが、共通使用のパソコンのニーズや満足度も比較的高いと判断される。

平成 22 年度農学研究科修了者におけるアンケート調査

項目	（％）				
	やや不満足	どちらともいえない	やや満足	満足	合計
パソコンの数量（学部，学科等共通）	26.7	13.3	40.0	20.0	100.0
パソコンの数量（研究室）	29.4	5.9	29.4	35.3	100.0
インターネット利用環境（学部，学科等共通）	25.0	25.0	31.3	18.8	100.0
インターネット利用環境（研究室）	17.6	11.8	41.2	29.4	100.0

（出典：平成 22 年度佐賀大学共通アンケート調査（卒業・修了予定者対象）報告書）

資料 7-1-2-1 農学部 ICT 環境（LAN，パソコン設置状況）

資料 2-1-1-3 農学部履修の手引（平成 22 年度 p1）

資料 7-1-2-2 自習スペースの利用状況調査（平成 19 年度）

【分析結果とその根拠理由】

農学部

教育の内容・方法や学生のニーズを満たすための情報ネットワークの整備は、概ね達成され、教職員及び学生により有効に活用されている。

農学研究科

教育の内容・方法や学生のニーズを満たすための情報ネットワークの整備は、概ね達成され、教職員及び学生により有効に活用されている。

観点 7-1-③： 図書館が整備され、図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されており、有効に活用されているか。

【観点に係る状況】

農学部

農学部には独自の図書室は設けていないが、学術雑誌や専門書類は、各研究室の教員の購入雑誌類を各研究室で閲覧できる体制を整える努力をしている。平成 22 年度の学生アンケートによれば、図書、学術雑誌、視聴覚資料に関する満足度は、やや不満足が 17.7%であり、比較的満足度は高いものと判断される。

農学研究科

農学部には独自の図書室は設けていないが、学術雑誌や専門書類は、各研究室の教員の購入雑誌類を各研究室で閲覧できる体制を整える努力をしている。平成 22 年度の学生アンケートによれば、図書、学術雑誌、視聴覚資料に関する満足度は、やや不満足が 17.7%であり、比較的満足度は高いものと判断される。

平成 22 年度農学研究科修了者におけるアンケート調査

(%)

項目	やや不満足	どちらともいえない	やや満足	満足	合計
図書、学術雑誌、視聴覚資料	17.7	17.6	41.2	23.5	100.0

(出典：平成 22 年度佐賀大学共通アンケート調査（卒業・修了予定者対象）報告書)

【分析結果とその根拠理由】

農学部

農学部に関する図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料は、佐賀大学附属図書館に系統的に収集、整理されており、有効に活用されている。農学部には独自の図書室は設けていないが、学術雑誌や専門書類は、各研究室の教員の購入雑誌類を各研究室で閲覧できる体制を整える努力をしており、教育研究上必要な資料は有効に活用されている。

農学研究科

農学部に関する図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料は、佐賀大学附属図書館に系統的に収集、整理されており、有効に活用されている。農学部には独自の図書室は設けていないが、学術雑誌や専門書類は、各研究室の教員の購入雑誌類を各研究室で閲覧できる体制を整える努力をしており、教育研究上必要な資料は有効に活用されている。

観点 7-1-④： 自主的学習環境が十分に整備され、効果的に利用されているか。

【観点に係る状況】

農学部

農学部の学生が利用する主な学習スペースは、附属図書館と農学部建物内にある。

附属図書館は、授業で使う参考図書を充実させ、学生用の机、パソコン等を整備している(資料 5-2-4-2)。農学部の建物内には、学生が自由に使える学習机と椅子を備えた学生専用スペースを設けている(資料 5-2-4-3)。学生への連絡や自習スペースとして、コミュニケーションルームを設けている。各々の教育研究分野(研究室)は、主として3学年以上の学生が学習に利用できるスペースを設けている(資料 7-1-2-2)。

農学部の自習スペースと設置図書、機材等(平成19年度)

学科	スペース (㎡) /年間延利用時間	図書、機材等			
		机	椅子	書籍	パソコン数
応用生物科学科	345/1,600	94	111	8,525	29
生物環境科学科	606/1,600	152	211	19,719	76
生命機能科学科	212/1,600	36	62	6,926	20

備考：自習スペースの利用状況調査(平成19年度)から

農学研究科

附属図書館には、自主的に学習する学生及び大学院生のための閲覧スペースとグループ学習室があり、パソコンによる図書・文献の検索や読書などを自由に行うことが可能である(資料 5-2-4-2)。インターネットによる情報収集は、附属図書館以外に総合情報基盤センターの施設も利用(資料 7-1-4-1)でき、講義時間以外に学生及び大学院生が自由に使用することができる。

農学研究科では、分野ごとあるいは研究室ごとに大学院生用の机を整備し、複数の教育分野では、大学院生専用の演習室を確保している。この表は、平成19年度の調査であるが、平成22年度もほぼ同様である。このパソコンは、大学院生が自主学習に活用しており、研究科や研究室では、パソコンは個人で持つように指導しているが、共通使用のパソコンのニーズ及び満足度も比較的高いと判断される。研究科の自習スペースに概ね満足している大学院生は、56.3%で、教養教育運営機構におけるそれ(28.5%)と比較すると、満足度は高いようである。インターネット利用環境に対する満足度も学部、学科に比べて研究室での満足度が概して高く、農学研究科における学習環境は比較的良いものと判断される。

農学部，農学研究科の自習スペース

場 所	面積 (m ²)	設置組織 0:学部 1:学科 ・課程 2:その他	年間延べ 利用時間 (時間)	黒板・ 白板の 数	机・テー ブルの 数	椅子の 数	書籍の 数 (冊)	PC の数	LANの有無 0:無し 1:有り (有線) 2:有り (無線)
農学部1号館1階	11.1	2	1,920	1	4	5	127	2	1,2
農学部1号館3階	25.1	2	1,920	0	9	9	229	4	1,2
農学部2号館1階	25.5	2	1,920	2	7	7	183	2	1
農学部2号館2階	11	2	1,920	1	3	7	1,400	1	1
農学部3号館1階	41.3	2	1,920	0	8	8	2,471	4	1
農学部4号館1階	11	2	1,920	1	2	2	213	1	1,2
農学部4号館2階	5.5	2	1,920	1	2	2	6	2	1,2
農学部4号館3階	80.7	2	1,920	1	18	38	1,050	7	1,2
農学部4号館4階	8.8	2	1,920	0	1	2	6	1	1,2
農学部4号館5階	101	2	1,920	1	18	28	120	7	1,2
フィールドセンター	5.7	2	1,920	1	2	3	7	1	1
海浜台地生物環境研究センター	44	2	1,200	1	10	10	50	0	1
合 計	370.7			10	84	121	5,862	32	
農学部1号館1階	19.1	2	1,920	2	9	9	1,433	2	1,2
農学部1号館2階	88.1	2	1,920	3	20	31	2,430	11	1,2
農学部1号館3階	51.4	2	1,920	1	14	20	2,084	5	1,2
理工学部9号館2階	11	2	1,920	2	3	5	630	2	1,2
合 計	169.6			8	46	65	6,577	20	

(出典：平成19年度教育活動調査報告書「自習スペース」)

平成22年度農学研究科修了者におけるアンケート調査

(%)

項目	やや 不満足	どちらとも いえない	やや満足	満足	合計
自習スペース (学部内又は学科内)	18.8	25.0	50.0	6.3	100.0
自習スペース (教養教育運営機構)	21.4	50.0	21.4	7.1	100.0

(出典：平成22年度佐賀大学共通アンケート調査(卒業・修了予定者対象)報告書)

資料 5-2-4-2 附属図書館利用規程

資料 5-2-4-3 農学部建物平面図

資料 7-1-2-2 自習スペースの利用状況調査(平成19年度)

資料 7-1-4-1 総合情報基盤センター利用規程

資料 5-5-3-1 平成21年度佐賀大学学生対象アンケート報告書 p45～47

【分析結果とその根拠理由】

農学部

農学部の学生のための自主的学習環境は、主に、附属図書館、総合情報基盤センター及び農学部建物において整備されているが、各研究室においても学術雑誌、専門書の購入・充実に努力している。

農学研究科

農学研究科の学生のための自主的学習環境は、主に、附属図書館、総合情報基盤センター及び農学部建物において整備されているが、農学研究科の大学院生によるアンケートの結果、自習スペース及びパソコンの使用に関する満足度は十分とは言えず、さらなる学習環境の充実について検討する必要がある。

7-2 学生への履修指導が適切に行われていること。また、学習、課外活動、生活や就職、経済面での援助等に関する相談・助言、支援が適切に行われていること

観点 7-2-①：授業科目、専門、専攻の選択の際のガイダンスが適切に実施されているか。

【観点に係る状況】

農学部

農学部教育委員会は、授業科目や専門、専攻の選択の際のガイダンスを、1年次最初のオリエンテーション時や前学期終了時、コース分属・分野分属時などに実施している。また、各学科・講座等の具体的な教育研究内容、教員組織等の具体的な内容は、佐賀大学農学部・農学研究科概要（資料 2-1-1-2）に記し、詳しく説明している。卒業・修了予定者アンケートの結果では、学修相談の体制について、不満を表明した学生は 18%にとどまっている（資料 6-1-2-2）。

農学研究科

農学部大学院教育小委員会を中心として、学生に対して年数回のガイダンスを行っている。具体的には、研究科の入学生を対象として、冊子体の大学院履修案内（資料 2-1-3-1）及び佐賀大学農学部・農学研究科概要（資料 2-1-1-2）を配布し、これに沿って、教育研究内容、教員組織、履修モデル、授業科目の選択、受講方法、履修方法、修了認定基準及び学位授与等について説明している。

また、個別な取り組みとして、各教育研究分野の指導教員は、分野所属の学生と相談し、2年間の履修計画を立て、マンツーマンで学習（履修）を指導し、指導の点検・評価を行っている（資料 2-1-3-1：p12、資料 5-5-6-1）。さらに、入学者の 1 割強を占める他大学からの入学者の多くに対し、教員は必要に応じて、個別に特別の指導（補完的な教育や研究方法の指導）を実施している。

平成 22 年度の修了予定者対象アンケート（資料 6-1-2-2）によれば、施設、設備の利用の手引や案内の内容を知っていましたかの質問に対して、知らなかったは 14.3%であり、一部の設備についての案内の不徹底はあるものの概ね設備利用について理解されていると思われる。入学時、進学時のガイダンスによって授業科目をどう履修したらよいかを理解できましたかの質問に対しては、100%の学生が理解で

きており（5段階評価3以上）、学習指導ガイダンスは適切と判断される。

- 資料 2-1-1-2 佐賀大学農学部・大学院農学研究科概要（平成 22 年度）
- 資料 6-1-2-2 平成 22 年度佐賀大学卒業・修了予定者アンケート基礎集計表
- 資料 2-1-3-1 平成 22 年度佐賀大学大学院農学研究科履修案内
- 資料 5-5-6-1 研究指導の実施に関する報告書（佐賀大学教務課大学院係）

【分析結果とその根拠理由】

農学部

オリエンテーション時などのガイダンス実施状況や卒業・修了予定者アンケートの結果から、授業科目や専門、専攻選択の際のガイダンスは、農学部教育委員会により、適切に実施されていると判断される。

農学研究科

2年間の履修計画を立てる際に、指導教員が学生に対してマンツーマンで学習（履修）方法を指導するなど、授業科目や専門、専攻の選択の際のガイダンス体制は適切である。

観点 7-2-②： 学習支援に関する学生のニーズが適切に把握されており、学習相談、助言、支援が適切に行われているか。また、特別な支援を行うことが必要と考えられる学生への学習支援を適切に行うことのできる状況にあり、必要に応じて学習支援が行われているか。

【観点に係る状況】

農学部

農学部では、学習支援に関する学生のニーズについて、学生対象アンケートの結果などから、教育委員会を中心に組織的に把握・分析している（資料 7-2-2-1）。全ての学生に対しチューターを定め、教育委員及びチューターが学生に対して適宜、学習相談、助言、支援を行っている（資料 7-2-2-2）。また、農学部ホームページにも在学生対象の履修方法などに関する質問コーナー（資料 7-2-2-3）を設け、農学部の全教員がオフィスアワーを設定し（資料 5-2-4-1）、学習相談・助言体制を整えている。さらに、教育委員会では平成 23 年度からのラーニング・ポートフォリオの実施に向けて準備を行っている。

聴覚障害を持つ学生に対しては、ノートテイクを配置するなど適切な支援を行っている（資料 7-2-2-4）。

どの程度の頻度でチューター（担任）教員に相談しているかのアンケート調査

			利用しなかった	1回	2～3回	4～7回	8回以上	合計
所属学科 ・課程	生物生産学科	度数 所属学科・課程の%	3 20.0%	5 33.3%	6 40.0%	1 6.7%	0 0%	15 100.0%
	応用生物科学科	度数 所属学科・課程の%	3 50.0%	1 16.7%	1 16.7%	0 0%	1 16.7%	6 100.0%

生命機能科学科	度数	1	2	10	0	0	13
	所属学科・課程の%	7.7%	15.4%	76.9%	0%	0%	100.0%
合計	度数	7	8	17	1	1	34
	所属学科・課程の%	20.6%	23.5%	50.0%	2.9%	2.9%	100.0%

(出典：平成 22 年度学生対象アンケート (農学部) 基礎集計表)

どの程度の頻度でオフィスアワーを利用しているか (1 学期当たりの利用回数) のアンケート調査

		利用しな かった	1 回	2~3 回	合計	
所属学科 ・ 課程	生物生産学科	度数	14	1	2	17
		所属学科・課程の%	82.4%	5.9%	11.8%	100.0%
	応用生物科学科	度数	6	1	0	7
		所属学科・課程の%	85.7%	14.3%	0%	100.0%
	生命機能科学科	度数	1	2	2	12
		所属学科・課程の%	66.7%	16.7%	16.7%	100.0%
合計	度数	7	4	4	36	
	所属学科・課程の%	77.8%	11.1%	11.1%	100.0%	

(出典：平成 22 年度学生対象アンケート (農学部) 基礎集計表)

農学研究科

農学研究科では学習支援に関する学生のニーズについて、大学院教育小委員会を中心に組織的に把握・分析し、助言、支援を行っている。また、農学部ホームページにも在学生対象の履修方法などに関する質問コーナー(資料 7-2-2-3)を設け、さらに農学部の全教員がオフィスアワーを設定し(資料 5-2-4-1)、学習相談・助言体制を整えている。平成 22 年度佐賀大学共通アンケート調査(卒業・修了予定者対象)報告書のアンケート(資料 5-5-3-1)によると、学習相談についての不満度(やや不満足)は 6.7%と小さく、また進路に関する相談・助言体制への不満度(やや不満足)も 25.0%であることから、学習支援に関して学生は概ね満足していると判断される。これは、農学研究科では学部と違って、個別指導が行き届いているので、オフィスアワー以外の時間でも相談が可能であるためと思われる。

資料 7-2-2-1 平成 22 年度学生対象アンケート (農学部) 基礎集計表

資料 7-2-2-2 平成 22 年度チューター名簿

資料 7-2-2-3 佐賀大学農学部ホームページ(在学生向け情報) <http://www.ag.saga-u.ac.jp/zaikousei.html>資料 5-2-4-1 平成 21 年度オフィスアワー一覧 <http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/office.html>

資料 7-2-2-4 平成 22 年度ノートテイカー名簿

資料 5-5-3-1 平成 21 年度佐賀大学学生対象アンケート報告書 p42

【分析結果とその根拠理由】

農学部

教育委員会で、学生アンケートなどから学生のニーズを把握し、全学生にチューターを置くなど、教育委員会とチューターを中心に適切な学習相談、助言、支援体制を整えている。

農学研究科

大学院教育小委員会を中心として、農学部ホームページにも在学生対象の質問コーナーを設けるなど、組織的に学生のニーズを適切に把握するため、適切な学習相談、助言、支援体制を整えている。農学研

究科では学習支援体制などに係る個別指導が行き届いていると思われる。

観点 7-2-③： 通信教育を行う課程を置いている場合には、そのための学習支援、教育相談が適切に行われているか。

【観点に係る状況】

該当なし

【分析結果とその根拠理由】

該当なし

観点 7-2-④： 学生の部活動や自治会活動等の課外活動が円滑に行われるよう支援が適切に行われているか。

【観点に係る状況】

佐賀大学農学部同窓会表彰規定（資料 7-2-4-1）に基づいて、スポーツや文化活動等で功績があった 2 人を表彰した。また、一部の農学部の教員が部活動の団体の顧問を担当している（資料 7-2-4-2）。

資料 7-2-4-1 佐賀大学農学部同窓会表彰規定

資料 7-2-4-2 学生団体の顧問教員（農学部）

【分析結果とその根拠理由】

スポーツや文化活動等で功績があった 2 人を表彰し、一部の農学部の教員が部活動等の団体の顧問を担当するなど、学生の部活動や自治会活動等の課外活動が円滑に行われるよう支援が適切に行われている。

観点 7-2-⑤： 生活支援等に関する学生のニーズが適切に把握されており、生活、健康、就職等進路、各種ハラスメント等に関する相談・助言体制が整備され、適切に行われているか。また、特別な支援を行うことが必要と考えられる学生への生活支援等を適切に行うことのできる状況にあり、必要に応じて生活支援等が行われているか。

【観点に係る状況】

農学部

学生委員会委員、大学教育委員会委員、チューター（担任）、卒論指導教員、学生生活課職員、農学部教務係職員を含む全ての教職員が、学生のニーズの把握と対応に努めている。全ての教員はオフィスア

ワーを設定し、一般学生、留学生、社会人、障害を有する学生からの多岐にわたる相談に対応している（資料 7-2-5-1）。

新入生から、教育研究分野への分属が決まるまでの学生については、チューター（担任）が相談役を務めている。各チューターは、約 20 人の学生の相談役となり、各学期毎に、必要に応じて個人面接を行うことにより、課題を抱えている学生を把握し、対応している。面接日時等は、掲示等により、学生へ周知している。教育研究分野へ分属した学生については、卒論指導教員が対応している。ハラスメントについては、同和人権問題委員会の委員及び同相談委員が主として対応している。

農学部の留学生、社会人入学生、編入学生、障害のある学生など、特別に支援が必要な学生の入学に備えて、留学生担当専門教員、教育委員会委員、学生委員会委員を配置して、学習支援体制を整えている。留学生については、学生チューター制をとり、学習と生活支援を実施している。

農学研究科

学生の進路・生活面・健康（精神面）及び定期的健康診断などについては、主に、所属研究室の指導教員、学生センターの相談窓口、農学部ホームページの相談窓口（資料 7-2-2-3）及び佐賀大学保健管理センターで対応している。また、佐賀大学学生支援室では、適切な学生の指導法を書いたチューター（担任）制度ガイドブック（資料 7-2-5-2）を発行し、教員に配布している。

留学生の場合には、日本の学生による学生チューター制（資料 7-2-5-3）を実施し、生活支援体制を整えている。また、農学研究科では、留学生専門講師を配置し、講義（資料 2-1-3-1）を通じて留学生の進路及び生活面などに関して支援している。

ハラスメントについては、農学研究科（農学部）では、女性の相談員を含め 2 人を配置し、入学時にハラスメント防止に関するパンフレット（資料 7-2-5-4）を入学生のガイダンス時に配布・説明し、入学後も学内で同和・人権の講習会を数回開き（資料 7-2-5-5）、教職員及び学生にこの問題が生じた場合の対応や、予め防ぐ方法などを周知している。

平日の労働時間帯に受講できにくい社会人学生に対しては、夜間開講あるいは集中講義を行う体制を取っている。なお、基礎教育が必要とされる社会人に対する補習教育については、大学院教育小委員会、学生委員会が適宜、あるいは指導教員が個別に対応している。

資料 7-2-5-1 教員報告様式 【佐賀大学ホームページ（職員向け掲示板）】

<https://udb.cc.saga-u.ac.jp/staffData/>

資料7-2-2-3 佐賀大学農学部ホームページ（在学生向け情報）<https://www.ag.saga-u.ac.jp/zaikousei.html>

資料7-2-5-2 チューター（担任）制度ガイドブック（佐賀大学学生支援室）

資料7-2-5-3 チューターの手引き（佐賀大学国際課）

資料2-1-3-1 平成22年度佐賀大学大学院農学研究科履修案内 p19

資料7-2-5-4 セクハラ・アカハラ・パワハラとは？（同和・人権問題委員会）

資料7-2-5-5 平成21年度同和・人権問題講習会開催予定表（同和・人権問題委員会）

【分析結果とその根拠理由】

農学部

学生のニーズ把握と、ハラスメント等の問題が生じた場合の体制は整備され、機能している。また、農学部の各種委員会及び関係教員が、特別な支援が必要な者への学習相談、助言を適切に実施していると判断される。

農学研究科

学生の健康、生活、進路面については、指導教員をはじめ学生センター、学生支援室及び保健管理センターなどで二重、三重に支援体制を整えている。ハラスメントの対応についてもパンフレットの配布、ガイダンス及び講習会などで周知すると同時に、相談・助言体制が整備され、適切に機能している。留学生については、学習内容に対応して、留学生担当講師あるいは日本人の学生が学習支援を、社会人学生に対しては、夜間開講科目や集中講義を用意するなど、制度的な教育支援を行っている。また、各種委員会及び関係教員が、個別に学習相談や助言を適切に行っているなど、支援体制は適切である。

観点7-2-⑥： 学生に対する経済面の援助が適切に行われているか。

【観点到係る状況】

農学部

全学部の学生を対象とした学生支援機構奨学金は、多くの農学部学生が利用している。

農学部の学生だけを対象とする給付型奨学金（中董奨学金）を、平成21年度は成績優秀な学生2人が受給している（資料7-2-6-1）。これ以外の奨学金等に関する情報は、掲示等により、学生に周知している。

農学部からの奨学生の推薦にあたっては、成績等により、学生委員会が厳正に順位付けを行った上で、上位者から推薦している。

農学研究科

佐賀大学の大学院生の経済支援体制として、授業料免除（半免を含む。）と奨学金制度があり、この窓口には佐賀大学学生センター（資料7-2-6-2）が対応し、ウェブ上に掲載して、広く周知している。農学部学生委員会では、大学院生の奨学生選考の順位を付け、全学学生委員会（資料7-2-6-3）に報告している。全学学生委員会では、厳正な審議を行い、大学院生の授業料減免者及び奨学生の候補者を決定している。また、農学研究科では、奨学金返還免除者申請に関する定め（資料7-2-6-4）を整備しており、入学時のガイダンスで周知している。

資料7-2-6-1 中董奨学生募集要項（平成21年度）

資料7-2-6-2 佐賀大学学生センター（授業料免除・奨学生） <http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/>

資料7-2-6-3 佐賀大学学生委員会規程

資料7-2-6-4 免除者申請の定め「農学研究科奨学金返還免除候補者」の選考について
（農学部学生委員会）

【分析結果とその根拠理由】

農学部

学生に対する経済的支援は、公平を期しながら、農学部学生委員と学生生活課が適切に実施している。

農学研究科

経済的支援体制として、農学研究科学生を対象とした授業料減免制度及び奨学生制度・奨学金返還免除制度を設けており、これらの選考制度が整備され、機能している。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

農学部及び農学研究科では、学生アンケートや実態調査等から判断して、教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備、また学生支援体制が整備され、それらが有効に機能していると思われる。

【改善を要する点】

特になし

(3) 自己評価の概要

農学部及び農学研究科では、学生アンケートや実態調査等から判断して、教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備、また学生支援体制が整備され、それらが有効に機能していると思われる。

8 教育の内部質保証システム

(1) 観点ごとの分析

8-1 教育の状況について点検・評価し、その評価に基づいて教育の質の改善・向上を図るための体制が整備され、機能していること。

観点 8-1-①： 教育の取組状況や大学の教育を通じて学生が身に付けた学習成果について自己点検・評価し、教育の質を保証するとともに、教育の質の改善・向上を図るための体制が整備され、機能しているか。

【観点到係る状況】

農学部

教員の教育活動の実態を示す資料（講義ノート、スライドファイル、資料等、学生の出席状況、試験問題、レポート課題、答案、レポート、成績結果、卒業論文、修士論文等）は、各教員が責任をもって保管・蓄積している。博士論文は、論文本体とPDFファイルを附属図書館で保管・蓄積している。これらの資料に基づく教育活動の実態は、農学部教育研究業績総覧及び農学部自己点検・評価報告書として取りまとめ、公開している（資料 3-2-2-2, 6-1-1-1）。

農学研究科

教員の講義ノート、学生の出席状況、試験問題、レポート課題、答案、レポート、模範解答、成績結果、卒業論文、修士論文、博士論文等の教育活動の実態の根拠となる原資料については、原則として担当した教員が保管・蓄積している。

農学研究科担当教員の全般にわたる教育（研究）活動の実態を平成 17 年度まで 3 年毎に農学部教育研究業績総覧（資料 3-2-2-2）として取りまとめていたが、平成 18 年度以降は佐賀大学農学部自己点検・評価報告書（資料 6-1-1-1）として毎年取りまとめ、農学部総務係が管理している。

資料 3-2-2-2 佐賀大学農学部教育研究業績総覧（2002 年，2006 年）

資料 6-1-1-1 佐賀大学農学部自己点検・評価報告書（平成 18，19，20 年度）

【分析結果とその根拠理由】

農学部

教育の活動実態を示すデータや資料の収集・蓄積及びその組織的な集計がなされている。

農学研究科

教育の状況について、活動の実態を示すデータや資料を研究科担当教員や附属図書館などで、収集・蓄積・管理しており、それらの組織的集計については研究業績総覧や自己点検・評価報告書などに取りまとめ、農学部総務係が適切に保管・管理している。

観点 8-1-②： 大学の構成員（学生及び教職員）の意見の聴取が行われており、教育の質の改善・向上に向けて具体的かつ継続的に適切な形で活かされているか。

【観点に係る状況】

農学部

「学生による授業評価」の集計結果とアンケート用紙の原票は教員へ返却され、授業改善に活用されている（資料 5-2-3-1）。農学部を含む全学部の授業評価を取り纏めた授業評価報告書には、集計・比較・分析された各評価項目のデータを記している（資料 8-1-2-1）。この分析結果を見ることにより、教員は担当科目についての相対的評価を知り、授業改善に活用できる。

大学教育委員会のFD専門委員会は、授業改善に資するため、授業評価の結果の活用（フィードバック）に関する先進事例等を紹介している。農学部FD専門委員会は、全学的なFD活動と連携しながら、教育の質的改善に向けた活動（講演会等）を実施している。

農学研究科

大学院の全講義において授業評価が実施され（資料 5-2-3-1）、この集計結果については、高等教育開発センターにおいて研究科ごとに集計・比較・分析し（資料 8-1-2-2）、評価項目に対する講義の相対的評価を個々の担当教員に通知し、これを参考に翌年に向けた授業の改善点などを各教員がウェブ入力し、ホームページで公表するようにしている（資料 5-5-1-1）。

また、平成 18 年度には大学教育委員会と高等教育開発センターでは、教職員にもアンケート（資料 8-1-2-3）を行い、オフィスアワーの設置意義やFD講演会の参加回数あるいは学生の授業評価の利用方法などを質問しており、これらのデータを基に教員の教育の質の向上や改善について検討している。

資料 5-2-3-1 授業評価実施要領（佐賀大学教育委員会）

資料 8-1-2-1 学生による授業評価と改善に関する実施報告書（平成 20 年度）

あるいは平成 21 年度－農学部－組織別授業評価報告書

資料 8-1-2-2 平成 21 年度佐賀大学授業評価・改善の実施に関する報告書

資料 5-5-1-1 佐賀大学ホームページ（Live Campus）

http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/live_campus_006.html

資料 8-1-2-3 平成 18 年度佐賀大学教員対象アンケート報告書

【分析結果とその根拠理由】

農学部

学生による授業評価、FD活動等が行われ、学生及び教員からの意見聴取を踏まえ、教育の質の向上に反映させている。

農学研究科

大学教育委員会と高等教育開発センターでは、大学院生による授業評価を毎年行い、また教職員にも教育に関する重要な事柄についてアンケートを行い、これらの結果を教員の授業改善及び教育全般にわたる改善に利用しており、大学の構成員の意見が教育の質の向上・改善に向けて継続的に適切な形で活かされている。

観点 8-1-③： 学外関係者の意見が、教育の質の改善・向上に向けて具体的かつ継続的に適切な形で活かされているか。

【観点到係る状況】

農学部

学外関係者の意見は、学生の保護者、同窓会会員、学部卒業生の採用企業、外部評価委員等から得ており、教職員の意識改革と教育の質的向上・改善に活用している。

農学部後援会を毎年開催し、保護者に対する教育活動報告と意見交換を行っている。意見交換を通して得られた要望等は、学科会議や学部運営会議で検討し、教育活動へ反映している。農学部同窓会総会には、学部長、学科長等が出席し、農学部における教育活動の報告と、卒業生からの意見聴取を行い、その結果を教育活動へ反映している。農学部卒業生の就職先に対するアンケート調査を農学部就職委員会が実施している。卒業生に対する社会の評価を学部教育へ反映させるために、報告書を作成し、各教員へ周知している（資料 6-2-2-1）。各年実施する農学部自己点検・評価において、学外評価委員からの意見を聴取し（資料 6-1-1-1）、農学部教育委員会や学部運営会議で検討し、教育活動の改善に活用している。

農学研究科

農学部就職委員会においては、平成 20 年度に修了生の就職先へアンケート調査を実施し、修了生に対する社会の評価を教育活動へ反映させるための報告書を作成・配布し、各教員へ周知している（資料 6-2-2-2）。

年 1 回、農学部後援会を開催し、保護者へ教育活動の報告を行い、保護者との意見交換の際、出てきた要望等を専攻会議や学部運営会議で検討し、教育活動へ反映させている。さらに、農学部自己点検・評価報告書（資料 6-1-1-1）について、学外評価委員からの意見を聴取し、学部教育委員会や学部運営会議で検討し、教育活動へ反映させている。

資料 6-2-2-1 平成 21 年度アンケート調査報告書（農学部卒業生・大学院修了者・就職先上司）

資料 6-1-1-1 佐賀大学農学部自己点検・評価報告書（平成 20 年度）

資料 6-2-2-2 平成 20 年度企業アンケート調査結果報告書

【分析結果とその根拠理由】

農学部

学外関係者から聴取した意見によると、本学部卒業生の企業における評価は高かった。企業アンケー

ト調査による意見を参考とし、教育の改善に活用するなど、学外関係者の意見が教育の質の向上、改善に向けて具体的かつ継続的に適切な形で活かされている。

農学研究科

会社関係者、保護者及び卒業生などのアンケートや意見ならびに農学部自己点検・評価報告書に対する学外評価委員の意見についてコース会議や学部運営会議などで検討され、教育活動へ反映されており、学外関係者の意見が、教育の質の向上、改善に向けて適切な形で活かされている。

8-2 教員、教育支援者及び教育補助者に対する研修等、教育の質の改善・向上を図るための取組が適切に行われ、機能していること。

観点 8-2-①： ファカルティ・ディベロップメントが適切に実施され、組織として教育の質の向上や授業の改善に結び付いているか。

【観点到に係る状況】

農学部

農学部教育委員会内のFD専門委員会を農学部ファカルティ・ディベロップメント委員会として独立させることにより、組織的なFD活動の実施体制を強化している（資料 8-2-1-1, 8-2-1-2）。教員の教育力向上のために、農学部独自のFDセミナーと研究紹介を実施している（資料 8-2-1-3, 8-2-1-4）。「学生による授業評価」は、継続的に実施し、授業評価の結果を授業改善に利用するため、大学教育委員会が集計分析し、各学部へフィードバックしている（資料 6-1-2-1）。

農学研究科

学生による授業評価に基づいたFD活動を行うために大学教育委員会で授業評価の結果を集計分析し、検討結果を学部へフィードバックし（資料 8-1-2-3）、これらに基づいて、教員はシラバスの改善（資料 5-5-1-1）を毎年継続的に行っている。また、平成 20 年度から本研究科に佐賀大学大学院農学研究科ファカルティ・ディベロップメント委員会を設置し（資料 8-2-1-5）、この活動に関する企画・実施体制を整えている。

さらに、佐賀大学では主に高等教育開発センターが毎年 2~3 回FD・SDフォーラムを開催し、教員へ授業評価の活用法などを教授している。さらに、毎月定期的に行われる研究科委員会の終了後、各教員がお互いの研究を紹介し（資料 8-2-1-4）、自分の専門分野以外の研究動向について勉強会を開き、これらを自らの教育研究に活かしている。

また、授業評価の結果から映像を用いた講義スタイルへの要望が強いことへの対応として、講義室にビデオ装置や動画処理が可能な液晶プロジェクターを整備し（資料 8-2-1-6）、さらに無線LANポートやLAN有線接続ポートを設け、インターネットを活用した講義を可能とするなど、教育環境の改善を行っている。

平成 20～22 年度高等教育開発センター主催FD・SDフォーラム

開催年度	開催日	講演題目	講演者
20	7/16 (水)	ブレンディット型英語 e-ラーニング授業の可能性	(佐賀大学) 文化教育学部：早瀬 博範
		数学「微分・積分学」(対面授業)においてe-ラーニングを用いた自己学習の充実とリメディアルの実施	(佐賀大学) 海エネ：池上 康之
		物理専門教育でのe-ラーニングによる問題出題の実践例	(佐賀大学) 理工学部：船久保 公一
20	2/24 (火)	学士力と高大連携の課題について	大学評価・学位授与機構： 萩上 紘一
21	5/21 (木)	金沢大学におけるポータル利用による教育改善の取り組み	金沢大学：堀井 祐介
21	7/6 (月)	ティーチング・ポートフォリオとは何か	大学評価・学位授与機構： 栗田 佳代子
21	11/25 (水)	I C T の効果はあるか	放送大学：内田 実
21	3/17 (水)	大学教育の質を組織レベルで保証するには？～愛媛大学におけるDP, CP, APの開発の経験から～	愛媛大学教育・学生支援機構： 小林 直人
22	10/29 (金)	大学におけるポートフォリオ活用事例集	金沢工業大学：藤本 元啓 九州工業大学：堀江 知義
22	11/17 (水)	日本人大学生を対象とした日本語・英語教育ーリメディアル教育から実力養成教育への展開ー	メディア教育開発センター 名誉教授, 昭和大学客員教授： 小野 博
22	2/17 (木)	大学共通科目の情報教育における現状と課題ー京都女子大学の最近10年の取り組みを通して考えるー	京都女子大学：水野 義之

(出典：高等開発教育センター記録)

資料 8-2-1-1 農学部ファカルティ・ディベロップメント委員会規程

資料 8-2-1-2 農学部教育委員会規程

資料 8-2-1-3 農学部教育委員会議事録 (平成 21 年度)

資料 8-2-1-4 農学部教員による研究紹介リスト

資料 6-1-2-1 平成 21 年度佐賀大学農学部組織別授業評価報告書

資料 8-1-2-3 平成 21 年度佐賀大学授業評価・改善の実施に関する報告書

資料 5-5-1-1 佐賀大学ホームページ (Live Campus)

<https://lc.sc.admin.saga-u.ac.jp/UI/jsp/login/loginTeacher.jsp?locale=ja>

資料 8-2-1-5 佐賀大学大学院農学研究科ファカルティ・ディベロップメント委員会規程

資料 8-2-1-6 農学部映像機器整備表

【分析結果とその根拠理由】

農学部

組織的にFD活動が実施され、教育の質の向上や授業の改善に活用されている。

農学研究科

年数回のFDセミナー開催による教員への授業評価の活用法の教育，新たな佐賀大学大学院農学研究科ファカルティ・ディベロップメント委員会の設置，授業評価に基づいた教員個々のシラバスなどの改善，映像機材などの導入による教育環境の充実など，FDが適切な方法で実施されており，組織として教育の質の向上や改善に結び付いている。

観点 8-2-②： 教育支援者や教育補助者に対し，教育活動の質の向上を図るための研修等，その資質の向上を図るための取組が適切に行われているか。

【観点に係る状況】

農学部

技術職員，ティーチング・アシスタント等は，実験，実習において，授業担当教員と連携を図りながら，教育支援を担っている。教育支援者は，実験，実習等の場において，On Job Training も受けながら，資質を向上させている。ティーチング・アシスタントについては，授業担当教員による説明（事前研修）を実施している。技術職員に対しては，資質の向上を目的とした研修会を実施している（資料 8-2-2-1）。

農学研究科

技術職員，ティーチング・アシスタント等の教育支援者や補助者は，実験，実習において授業担当教員等と密接に連携し，教育支援を行っている。技術職員には，資質の向上を図る目的で毎年研修会や学会などに参加させている。また，主に大学院生が行うティーチング・アシスタントについては，佐賀大学ティーチング・アシスタント実施要項に基づき（資料 8-2-2-2），教育支援のノウハウを授業担当教員が指導し，教育支援者としての資質の向上を図っている。

平成 20, 21, 22 年度の技術職員による研修例

年度	農学部・農学研究科	附属資源循環フィールド科学教育センター
平成 20	大島技術員：マングローブ研究打合せ（佐伯市）	福嶋技術専門職員：平成 20 年度第 1 回 JAS 講習会（熊本県御舟町カルチャーセンター），研究発表，全国大学附属農場協議会（東海大学阿蘇校舎） 嘉村技術専門職員：園芸学会平成 20 年度春季大会ポスター発表（東京農業大学），平成 20 年度第 1 回 JAS 講習会（熊本県御舟町カルチャーセンター），平成 20 年度第 2 回 JAS 講習会（熊本県御舟町カルチャーセンター） 森技術員：平成 20 年度九州地区国立大学等技術職員スキルアップ研修（鹿児島大学），平成 20 年度第 1 回 JAS 講習会（熊本県御舟町カルチャーセンター），平成 20 年度佐賀大学中堅職員研修（佐賀大

		<p>学)</p> <p>田原技術専門職員，福嶋技術専門職員，嘉村技術専門職員：全国大学附属農場協議会及び技術研修（東海大学阿蘇校舎）</p> <p>田原技術専門職員，福嶋技術専門職員，嘉村技術専門職員，森技術員：佐賀県特別栽培農産物認証制度に係る生産管理責任者講習会，第1回佐賀有機農業塾（唐津総合庁舎）</p>
平成 21	<p>中谷技術員：九州地区国立大学法人等技術専門職員・中堅職員研修（九大五十周年記念講堂），機器・分析技術研究会実験・実習技術研究 in 琉球（琉球大学）</p> <p>大島技術員：バラフ及びマングローブの生育調査，鹿島市マングローブ移動作業（鹿島市）</p>	<p>福嶋技術専門職員：平成 21 年度全国大学附属農場協議会秋季協議会並びに教育研究シンポジウム及び岩手大学農学部圃場の視察（ホテルメトロポリタン盛岡及び岩手大学農学部），JAS 講習会（植木町生涯学習センター）</p> <p>嘉村技術専門職員：九州地区国立大学法人等技術専門職員・中堅技術職員研修（九州大学五十周年記念講堂），全国大学附属農場協議会九州地域協議会及び技術職員研修（宮崎大学農学部自然共生フィールドセンター）</p> <p>森技術員：全国大学附属農場協議会九州地域協議会及び技術職員研修（宮崎大学農学部自然共生フィールドセンター），研究発表：有機栽培における佐賀県地方野菜‘女山ダイコン’の自家採種基地の開発</p> <p>青木技術専門職員：九州地区国立大学法人等技術職員スキルアップ研修（熊本大学）</p>
平成 22	<p>中谷技術専門職員：局所排気装置定期自主検査者養成講習，平成 22 年度総合技術研究会（熊本大学），平成 22 年度佐賀大学技術発表会（佐賀大学）</p> <p>大島技術員：アイズプラントの栽培に関する打合せ（日田市役所），平成 22 年度佐賀大学技術発表会（佐賀大学）</p> <p>片山技術員：みかん亜科植物（ゲッキツ）及びシーカーシャの現地調査のため（那覇市近郊のゲッキツ調査地），平成 22 年度佐賀大学技術発表会</p>	<p>福嶋技術専門職員：園芸学会平成 22 年度秋季大会（大分大学），平成 22 年度全国大学附属農場協議会九州地域協議会及び技術職員研修（那覇市），平成 22 年度九州地区国立大学法人等技術専門員研修会（大分大学），平成 22 年度総合技術研究会（熊本大学），平成 22 年度佐賀大学技術発表会（佐賀大学）</p> <p>嘉村技術専門職員：園芸学会平成 22 年度秋季大会ポスター発表（大分大学），JAS 講習会（熊本市），佐賀県特別栽培農産物講習会（佐賀市），平成 22 年度佐賀大学技術発表会（佐賀大学）</p> <p>森技術員：園芸学会平成 22 年度秋季大会口頭発表（大分大学），平成 22 年度全国大学附属農場協議会九</p>

	(佐賀大学)	州地域協議会及び技術職員研修ポスター発表（那覇市），平成 22 年度佐賀大学技術発表会口頭発表（佐賀大学），佐賀県特別栽培農産物講習会（佐賀市），事務職員向け知的財産研修（佐賀大学）
--	--------	---

(出典：農学部総務係記録)

資料 8-2-2-1 佐賀大学教室系技術職員学科別技術専門研修（平成 21 年度）

資料 8-2-2-2 佐賀大学ティーチング・アシスタント運用要領（佐賀大学教務課）

【分析結果とその根拠理由】

農学部

教育支援者の資質の向上を図る研修等の取組は適切に実施されている。

農学研究科

教育支援者に対し，教育活動の質の向上を図るための研修を行い，また，佐賀大学ティーチング・アシスタント運用要領を定め，授業補助者へ授業担当教員が教育支援のノウハウを指導するなど，資質の向上を図るための取組を行っている。

（2）優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

農学部及び農学研究科では，各種アンケート調査から，教育の状況についての点検・評価及び教育の質の改善・向上を図るための体制が整備され，機能している。

【改善を要する点】

特になし

（3）自己評価の概要

農学部及び農学研究科では，各種アンケート調査から，教育の状況についての点検・評価及び教育の質の改善・向上を図るための体制が整備され，機能していると判断される。

9 管理運営

(1) 観点ごとの分析

9-2 管理運営体制及び事務組織が適切に整備され、機能していること。

観点9-2-①： 管理運営のための組織及び事務組織が、適切な規模と機能をもっているか。また、危機管理等に係る体制が整備されているか。

【観点到係る状況】

農学部

農学部の管理運営は、学部長のリーダーシップの下で、教員組織と事務組織（農学部事務長、総務係職員及びフィールドセンター事務係職員）が連携・協力しながら、任務を果たしている。なお、農学部では全学的な管理運営に係る諸規則・諸規程に加えて、独自の諸規程等を制定・整備し、農学部の管理運営に係る業務を遂行している。これら諸規程等には、制定目的、職務、委員会構成などを明記している。

管理運営に関する農学部委員会と構成員（平成21年4月現在）

委員会等の名称	構成員
学部運営会議	学部長，教育研究評議員（1），副学部長（2），学科長（3）
農学部基本計画委員会	副学部長（1），学科選出教員（6）
農学部予算委員会	副学部長（1），学科選出教員（3）
農学部人事委員会	学科選出教員（6）
農学部評価委員会	学部長，副学部長（2），大学評価委員会委員（2），学科長（3），フィールドセンター長，学部長指名者（3），事務長
農学部施設委員会	副学部長（1），大学施設マネジメント委員会委員（1），基本計画委員会委員（2）
農学部安全衛生委員会	副学部長（1），学生委員会委員（1），講座選出委員（7），フィールドセンターの衛生推進者（1），事務長，農学部技術職員（1），センター技術職員（1）
フィールドセンター運営委員会	センター長，副センター長（1），学科選出委員（3） センター長が必要と認めた者（3），センター専任教員（3），事務長

農学部の管理運営に関する主な規則・規程等（平成22年4月現在）

全般	農学部規則，農学部教授会規程，農学部運営会議規程，農学部副学部長に関する規程（選考規程），農学部事務分掌規程，農学部学科長規程（選考規程），農学部基本計画委員会規程，教育研究分野の新設及び改廃の手続きについて，農学部学科改組における学科長及び副学科長の職務に関する申合せ
評価	農学部評価委員会規程

人事	農学部長候補者選考規程，農学部人事委員会内規，人事委員会申合せ，農学部の人事に関する申合せ，教員の特別昇給候補者選考実施要領
予算	農学部予算委員会規程，学部・大学院修士課程予算配分方法，特別設備の維持費及び研究基盤支援促進経費並びに外部研究資金から光熱費等としての振替に関する申合せ
施設・安全管理	農学部施設委員会規程，農学部施設点検・評価実施細則，農学部安全衛生管理規程，農学部安全点検実施要領，農学部安全衛生委員会廃棄物処理専門部会内規，農学部防火管理委員会内規
附属センター	農学部附属資源循環フィールド科学教育研究センター規程，農学部附属資源循環フィールド科学教育研究センター長選考規程

農学部の運営に関する重要事項は，農学部長（農学研究科長を兼務）を議長とする農学部教授会で審議し，教授会構成員全員が，全学部的あるいは全学的な視野に立った学部運営を行っている。教授会の審議を実質化させ，円滑な運営を行うために，学部運営会議（学部長，教育研究評議員，副学部長，学科長の7人で組織），学科会議及び各種委員会等が設けられている。委員会の構成，責務，権限等は委員会規程等に明記されている。

農学部の管理運営責任者である農学部長の候補者の選考は，佐賀大学農学部長候補者選考規程に定めている。学部長候補者選挙管理委員会の管理の下で実施される学部長候補者の選挙結果に基づいて，教授会で審議し，学部長候補者を学長に推薦する。佐賀大学学部長選考規則に基づいて，当該学部からの推薦を受けて，学長が学部長を選考する。学部長は，教員選考委員会に出席して意見を述べることができ，学部の人事計画について方針を示すことができる。

副学部長は学部長が指名し，学科長は，学科構成員による選挙で選出され，学科を代表し，学科の運営及び学科における教育研究活動に関する事項を処理している。

危機管理のために，「非常事態発生時（勤務時間外）の緊急連絡網」を定め，教職員と学生へ周知している。緊急事態の発生を未然に防止するための実務は，専門知識を持つ教員を含む農学部安全衛生委員会（委員長は副学部長），農学部安全衛生委員会廃棄物処理専門部会等が担当している。

農学研究科

農学研究科の管理運営は，研究科長（学部長兼任）のリーダーシップの下で，教員組織と事務組織（農学部事務長と総務係職員）が連携・協力しながら，任務を果たしている。農学部には，管理運営に係る委員会として，管理運営を含む重要事項について検討するための組織である学部運営会議（学部長，教育研究評議員，副学部長，学科長の7人で組織）をはじめ，農学部予算委員会，農学部基本計画委員会，農学部人事委員会，農学部評価委員会，農学部施設委員会，農学部安全衛生委員会，フィールドセンター運営委員会を設置しているが，これらの委員会は農学研究科の管理運営に関わる事項についても審議し，管理運営に係る事項は，研究科委員会において周知されている。

研究科委員会は，研究科を担当できる資格を持つ教授（24人），准教授（25人），講師（1人）及び助教（1人）により構成している（平成21年4月現在）。研究科委員会は，各種委員会委員の選出や，その他の運営に関する事項の審議を行っている。なお，農学研究科の管理運営に関する方針は学部の方針

を準用し、各委員会委員は学部と兼務し、効率化を図っている。

危機管理のために、「非常事態発生時（勤務時間外）の緊急連絡網」を定め、教職員と大学院生へ周知している。緊急事態の発生を未然に防止するための実務は、農学研究科においても効率化を図るために農学部安全衛生委員会（委員長は副学部長）、農学部安全衛生委員会廃棄物処理専門部会等が担当している。

【分析結果とその根拠理由】

農学部

農学部の管理運営の組織と事務組織は、適切な規模となっており、適切に機能している。また、農学部の管理運営に関する諸規程が整備されて、管理運営に関わる委員会等を設置し、委員会等の責務、権限、委員選考方法等を文書として明確に定めている。危機管理のために、「非常事態発生時（勤務時間外）の緊急連絡網」を定め、教職員と学生へ周知しており、適切に機能している。

農学研究科

農学研究科の管理運営の組織と事務組織は、適切な規模となっており、適切に機能している。研究科委員会規程に基づいて、研究科委員会が招集され、農学研究科の管理運営について審議決定し、研究科の運営が行われている。管理運営に関わる委員会等の責務、権限、委員選考方法等を明確に定めている。危機管理のために、「非常事態発生時（勤務時間外）の緊急連絡網」を定め、教職員と学生へ周知しており、適切に機能している。

なお、農学研究科の管理運営に関する方針は学部の方針を準用し、各委員会委員は学部と兼務し、業務等の効率化を図っている。

観点9-2-②：大学の構成員（教職員及び学生）、その他学外関係者の管理運営に関する意見やニーズが把握され、適切な形で管理運営に反映されているか。

【観点到る状況】

農学部

教職員のニーズは、各種学内委員会、学科会議等を介して把握されている。この際、教育研究分野レベルのニーズも把握できるように配慮している。

学生のニーズは、多様なチャンネルを介して、把握している。学生生活については、学生委員会と学生生活課、修学については、教育委員会と教務課がニーズ（課題）を把握している。チューター（担任）を含む全教員は、学生（卒業生を含む。）ならびに保護者（農学部後援会会員）のニーズ把握に努めている。

学外者からのニーズは、卒業生の就職先企業、地元佐賀県関係、外部評価委員を通して把握している。また、自己点検評価報告書を作成し、外部評価委員に農学部の管理運営についての意見も求めている（資料6-1-1-1）。

農学部教職員、学生、学外者のニーズは、農学部あるいは各学科で検討し、管理運営に活かしている。

農学研究科

教職員のニーズは、各種学内委員会、専攻会議、研究科委員会等を介して把握されている。教育研究分野レベル及び個人レベルのニーズも把握できるように配慮している。

大学院生のニーズは、アンケート調査（資料 5-5-3-1）や面談を通して把握している。学習については、教育委員会と教務課がニーズ（課題）を把握している。指導教員を含む全教員は、大学院生（修了生を含む。）ならびに保護者（農学部後援会会員）のニーズ把握に努めている。

学外者からのニーズは、修了生の就職先企業、地元佐賀県関係、学部評価委員を通して把握している（資料 6-2-2-2）。また、学部評価委員に農学研究科の管理運営についての意見も求めている（資料 6-1-1-1）。

農学研究科教職員、大学院生、学外者のニーズは、農学研究科あるいは各専攻で検討し、管理運営に活かしている。

資料 6-1-1-1 佐賀大学農学部自己点検・評価報告書（平成 20 年度）

資料 5-5-3-1 平成 20 年度学生対象アンケート報告書

資料 6-2-2-2 平成 20 年度企業アンケート調査報告書

【分析結果とその根拠理由】**農学部**

各種委員会やアンケート等を通じて、農学部内外のニーズを把握し、それらの結果が適切な形で農学部の管理運営に反映されている。

農学研究科

各種委員会やアンケート等を通じて、農学研究科内外のニーズを把握し、それらの結果が適切な形で農学研究科の管理運営に反映されている。

観点 9-2-③： 監事が置かれている場合には、監事が適切な役割を果たしているか。

【観点到係る状況】

該当なし

【分析結果とその根拠理由】

該当なし

観点 9-2-④： 管理運営のための組織及び事務組織が十分に任務を果たすことができるよう、研修等、管理運営に関わる職員の資質の向上のための取組が組織的に行われているか。

該当なし

【分析結果とその根拠理由】

該当なし

9-3 大学の活動の総合的な状況に関する自己点検・評価が実施されているとともに、継続的に改善するための体制が整備され、機能していること。

観点9-3-①：大学の活動の総合的な状況について、根拠となる資料やデータ等に基づいて、自己点検・評価が行われているか。

農学部

農学部の自己・点検評価は、農学部評価委員会（構成：学部長，副学部長，佐賀大学評価委員，学科長，附属資源循環フィールド科学教育研究センター長，学部長指名職員，事務長）が，教育，研究，国際交流・社会貢献，組織運営及び施設の5つの領域について，教育研究等に関する教員のデータベース等に基づいて実施している（資料3-2-2-1）。自己点検・評価の結果は，冊子として発行し，公開している（資料6-1-1-1）。また，評価報告書はウェブサイト上でも閲覧することができる（資料9-3-1-1）。

農学研究科

農学研究科の自己・点検評価は，農学部評価委員会（構成：学部長（研究科長を兼務），副学部長，佐賀大学評価委員，学科長，附属資源循環フィールド科学教育研究センター長，学部長指名職員，事務長）が，教育，研究，国際交流・社会貢献，組織運営及び施設の5つの領域について，教育研究等に関する教員のデータベース等に基づいて実施している（資料3-2-2-1）。自己点検・評価の結果は，冊子として発行し，公開している（資料6-1-1-1）。また，評価報告書はウェブサイト上でも閲覧することができる（資料9-3-1-1）。

資料3-2-2-1 農学部評価委員会規程

資料6-1-1-1 佐賀大学農学部自己点検・評価報告書（平成20年度）

資料9-3-1-1 佐賀大学ホームページ（大学評価について）

<http://www.saga-u.ac.jp/hyoka/gakugai/hyouka.htm>

【分析結果とその根拠理由】

農学部

法人（大学）が実施する自己点検・評価に加えて，教育研究等に関する教員のデータベース等に基づいて農学部独自の自己点検・評価がなされ，その結果は公表されている。

農学研究科

法人（大学）が実施する自己点検・評価に加えて、教育研究等に関する教員のデータベース等に基づいて農学部・農学研究科独自の自己点検・評価がなされ、その結果は公表されている。

観点9-3-②： 大学の活動の状況について、外部者（当該大学の教職員以外の者）による評価が行われているか。

【観点に係る状況】

農学部

農学部の自己・点検評価は、農学部評価委員会が実施し、外部評価委員による検証を受けている。5つの領域（教育、研究、国際交流・社会貢献、組織運営、施設）について実施された平成20年度の自己点検・評価については、外部評価委員による検証結果を、平成23年10月に得た。自己点検・評価と外部評価の結果は冊子として取りまとめられ、公表された（資料6-1-1-1, 9-3-1-1）。冊子は、学部改善に資するため、農学部教員と関係教職員へ配布された。

農学研究科

農学研究科の自己・点検評価は、5つの領域（教育、研究、国際交流・社会貢献、組織運営、施設）について農学部評価委員会が実施し、外部評価委員による検証を受けている。平成22年度の自己点検・評価については、外部評価委員による検証結果を、平成23年10月に得た。自己点検・評価と外部評価の結果は冊子として取りまとめられ、公表された（資料6-1-1-1, 9-3-1-1）。冊子は、研究科の改善に資するため、農学研究科教員と関係教職員へ配布された。

資料6-1-1-1 佐賀大学農学部自己点検・評価報告書（平成20年度）

資料9-3-1-1 佐賀大学ホームページ（大学評価について）

<http://www.saga-u.ac.jp/hyoka/gakugai/hyouka.htm>

【分析結果とその根拠理由】

農学部

自己点検・評価した結果について、学外者による検証は実施されている。

農学研究科

自己点検・評価した結果について、学外者による検証は実施されている。

観点9-3-③： 評価結果がフィードバックされ、改善のための取組が行われているか。

【観点に係る状況】

農学部

評価の結果明らかになった問題点は、学科会議、学部教育委員会、学部運営会議等で検討するとともに、改善が必要な事項等を、教授会等を通じて教員へ周知し、学部教育の質の向上のために活用している（資料 6-1-1-1）。

農学研究科

評価の結果明らかになった問題点は、専攻会議、大学院教育委員会小委員会、学部運営会議等で検討するとともに、改善が必要な事項を、研究科委員会等を通じて教員へ周知し、大学院教育の質の向上のために活用している（資料 6-1-1-1）。教育の質の向上・改善を図るために必要な抜本的な事項については、基本計画委員会で検討がなされている（資料 9-3-3-1）。

資料 6-1-1-1 佐賀大学農学部自己点検・評価報告書（平成 20 年度）

資料 9-3-3-1 基本計画委員会議事録（平成 21 年度）

【分析結果とその根拠理由】

農学部

評価結果のフィードバック・システムが整備され、学部の管理運営及び教育研究体制等の改善に活用されている。

農学研究科

評価結果のフィードバック・システムが整備され、研究科の管理運営及び教育研究体制等の改善に活用されている。

（2）優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

- 1 管理運営のための組織及び事務組織は、適切な規模を有し、危機管理等に係る体制も整備され、これらは適切に機能している。
- 2 農学研究科の管理運営に関する方針は、学部の方針を準用し、各委員会委員は学部と兼務し、管理運営業務等の効率化を図っている。
- 3 各種委員会やアンケート等を通じて得られた農学部・農学研究科内外の管理運営に対するニーズ等を適切に把握し、それらの結果を教授会・研究科委員会等を通じて教職員に周知し、農学部の管理運営に反映させている。
- 4 学部及び研究科の自己点検評価・外部評価に関する評価結果のフィードバック・システムが整備され、学部及び研究科の管理運営及び教育研究体制等の改善に活用されている。

【改善を要する点】

特になし

(3) 自己点検評価の概要

教員数が50人の小さな本学部において、管理運営のための組織及び事務組織は適切な規模を有し、これらは適切に機能している。また、危機管理のために、「非常事態発生時（勤務時間外）の緊急連絡網」を定め、教職員と学生へ周知しており、適切に機能している。さらに、農学研究科の管理運営に関する方針は学部の方針を準用し、各委員会委員は学部と兼務し、管理運営業務等の効率化を図っている。各種委員会やアンケート等を通じて得られた農学部・農学研究科内外の管理運営に対するニーズ等を適切に把握し、それらの結果を教授会・研究科委員会等を通じて教職員に周知し、農学部の管理運営に反映させている。学部及び研究科の管理運営や教育研究の自己点検評価・外部評価は適切に行われており、それらに関する評価結果のフィードバック・システムが整備され、学部及び研究科の管理運営及び教育研究体制等の改善に活用されている。

10 教育情報等の公表

(1) 観点ごとの分析

10-1 大学の教育研究活動等についての情報が、適切に公表されることにより、説明責任が果たされていること。

観点10-1-① 大学の目的（学士課程であれば学部，学科又は課程等ごと，大学院課程であれば研究科又は専攻等ごとを含む。）が，適切に公表されるとともに，構成員（教職員及び学生）に周知されているか。

【観点到係る状況】

農学部

農学部の目標は，農学及び関連する学問領域において，多様な社会的要請にこたえうる幅広い素養と実行力を身に付けた人材を育成することである。この農学部の目標，また組織する3学科の目標については，農学部のホームページで公開するとともに，平成22年度佐賀大学農学部・大学院農学研究科概要や佐賀大学農学部履修の手引に記載し，教職員及び学生に周知している。農学部の目標，各学科の概要等については，入学時のガイダンスにおいても教育委員，チューター教員等から学生へ周知されている。

農学研究科

農学研究科の目標は，食糧問題と環境問題を克服し，地球上の生物が共存し続けるための科学技術の発展に寄与するために，社会・国際ニーズに応えられる創造性豊かな専門家を育成することである。この研究科の目標については，農学研究科のホームページで公開するとともに，平成22年度佐賀大学農学部・大学院農学研究科概要や佐賀大学大学院農学研究科大学院履修案内に記載し，教職員及び学生に周知している。平成22年度の研究科改組に伴う，1専攻5コース及び副コース（農業技術経営管理学コース）の設置に関する教育研究の理念と目標，設置趣旨等についても，これらの冊子に明記されている。研究科の目標，コース概要等については，入学時のガイダンスにおいても教育委員等から学生へ周知されている。

【分析結果とその根拠理由】

農学部

農学部の目標，概要等は，ホームページ及び佐賀大学農学部・大学院農学研究科概要や佐賀大学農学部履修の手引等の冊子で公表されており，ガイダンス等において学生へ適時周知されていることから，説明責任が果たされている。

農学研究科

農学研究科の目標，概要等は，ホームページ及び大学院農学研究科概要や大学院履修案内等の冊子で公表されており，ガイダンス等において学生へ適時周知されていることから，説明責任が果たされてい

る。

観点10-1-②： 入学者受入方針，教育課程の編成・実施方針及び学位授与方針が適切に公表，周知されているか。

【観点に係る状況】

農学部

農学部の入学者受入方針，教育課程の編成・実施方針及び学位授与方針は，三つの方針として，ホームページ（佐賀大学学生センターのウェブサイト）上で一般に公開されている。また，各学生に配布される履修の手引の中にも，各学科の教育目標，開講意図，標準履修モデル，履修認定と卒業要件等が明記されており，教育委員やチューター教員，また指導教員等から適宜周知されている。

農学研究科

農学研究科の入学者受入方針，教育課程の編成・実施方針及び学位授与方針は，三つの方針として，ホームページ（佐賀大学学生センターのウェブサイト）上で一般に公開されている。また，各学生に配布される大学院履修案内の中にも，各コースの教育目標，研究指導の方法，修士論文及び最終試験の評価基準，修了要件と学位，授業科目と履修方法等が明記されており，教育委員や指導教員から適宜周知されている。

【分析結果とその根拠理由】

農学部及び農学研究科の三つの方針はホームページ上で公開されており，また大学院履修案内のような冊子にもその内容が記載され，学生に周知されていることから，説明責任が果たされている。

観点10-1-③： 教育研究活動等についての情報（学校教育法施行規則第172条の2に規程される事項を含む。）が公表されているか。

【観点に係る状況】

農学部及び農学研究科における教育研究活動の情報は，農学部自己点検・評価報告書（最新版は平成21年度版）等の冊子及び佐賀大学ホームページ（研究者総覧データベースのウェブサイト）により一般に公開されている。ウェブサイト上の情報には，各教員の組織名，職名，専門分野，所属学会，学歴，職歴，受賞歴，研究テーマ等が含まれ，また各個人の研究業績データベースのページや研究室のホームページにもリンクしており，各教員の教育研究基礎情報が適切に掲載されている。

また，毎年農学部同窓会との連携により，農学部の最新の研究成果について数名の教員が紹介するシンポジウムを独自に開催し，農学部同窓会会員，旧農学部教員，地域試験場研究者，企業研究者及び一般市民や高校生を対象に講演を行い，広く研究成果を公表している。

【分析結果とその根拠理由】

農学部及び農学研究科における教育研究活動の情報は、農学部自己点検・評価報告書等の冊子及びウェブサイト（佐賀大学ホームページ）で一般に公開されていることから、説明責任が果たされている。

（２）優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

農学部同窓会との連携により毎年研究成果シンポジウムを独自に開催し、農学部同窓会会員、旧農学部教員、地域試験場研究者、企業研究者及び一般市民や高校生を対象に情報を発信している。

【改善を要する点】

特になし

（３）自己評価の概要

農学部及び農学研究科では、その教育研究活動等についての情報が、ホームページや各種公開シンポジウム等で適切に公表され、説明責任が果たされている。